

# ANNUAL REPORT 2022

COMMUNITY MEDICINE MANAGEMENT

Faculty of Medicine Shimane University

令和4年度

島根大学医学部  
地域医療支援学講座報告書










**FACULTY OF MEDICINE  
SHIMANE UNIVERSITY**

# DEPARTMENT OF COMMUNITY MEDICINE MANAGEMENT



## 目次 CONTENTS

ごあいさつ	02
 島根大学医学部地域医療支援学講座メンバー紹介	04
 講座紹介	05
 1年間のあゆみ	06
1 学生教育	06
2 学生支援等	19
3 地域医療交流サロンの取り組み	38
4 地域医療支援等	43
5 ホームページ・広報誌等による情報発信	46
6 島根総合診療専門医育成ネットワークの取り組み	50
7 ワークライフバランス	56
 業績	62
 写真で見る1年間	72
おわりに	78

## ごあいさつ

MESSAGE

### 島根大学医学部長 鬼形和道

いよいよポストコロナの時代を迎えます。平素は、島根大学医学部の地域医療支援学講座の活動にご支援、ご鞭撻を賜り、心より感謝申し上げます。令和4年度（2022年度）の報告書が完成しましたので、皆さまにお届けいたします。

先日、4年ぶりに本格的な学位授与式が執り行われました。この3年間は、卒業生と限られた関係者のみの式典でしたが、今年は保護者の方々の臨席も実現して様々な思いが交錯する会場となりました。コロナ禍で喪われた、そして忘れかけた“大切な温かさ”を肌で感じました。

報告書の中の「1年間のあゆみ」のページをめくると、1枚に10数名が並ぶオンライン会合の写真に加えて、対面開催の写真も増えているように見えます。今年も、幾多の写真に「笑顔」があふれています。やはり、学部学生、研修医等の若手の笑顔が魅力的です。これは、佐野教授が、次世代を見据えた地域医療支援学講座の活動を展開している証と拝察いたします。

今年の報告書の中で注目されるのは、10ページにおよぶ「業績」です。地域病院および大学の熱心な先生方の指導により、多くの論文が蓄積しています。医学教育に対する情熱を持つ佐野教授は、多方面との交流を介して、臨床研究に前傾姿勢で取り組んでいます。本校で卒前教育を受けた学生が医師となり、そして臨床研修指導医となる時代です。佐野教授には、卒前から卒後にかけてシームレスな医学教育を展開いただきたいと存じます。

最後に、「写真で見る1年間」の企画が素晴らしいです。1枚の写真から、その人の人となり伝わってきます。その穏やかな表情、満面の笑み、輝く視線、そしてボディランゲージは私たちの心に“大切な温かさ”をもたらします。

地域医療に関わる若手医師の育成・県内定着とともに、彼らのキャリア形成（専門医取得・教育者・指導者）を支援することが本講座の使命です。医学教育の中で、「知識」や「技術」とともに、いやそれ以上に「態度・姿勢」が重要視されています。地域医療への貢献は島根大学医学部の大きなミッションであり、地域で指導者あるいは教育者となれる高い資質を有した人材の育成を進めてまいります。

こうした人材育成を図る上で、島根県、市町村、そして県内外の医療機関と島根大学医学部および本講座との密接な連携が必須です。引き続き、本講座および島根大学医学部へのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## ごあいさつ

MESSAGE

### 地域医療支援学講座 教授 佐野千晶

皆様方には、島根大学医学部地域医療支援学講座の取り組みに対しまして、平素より多大な御協力賜り、深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の流行 2022年1～3月には第6波、7～9月には第7波、11～3月には第8波に見舞われ、講座での活動や企画も翻弄されてまいりました。そのような状況ではございましたが、多くの地域の関係者皆様のご理解ご協力により、ほとんどの現地実習などの実施を行うことができました。関係者の皆様には心より御礼申し上げます。参加学生からは、学びが深まった、有意義であったという感想と受け入れ施設への感謝の言葉が多数寄せられています。今後も感染対策を講じながらではありますが、希薄となりかけた人と人との繋がりが少しでも実感しやすい楽しい企画を展開していきたいと思っております。

医学教育の中でも地域医療教育は、地域基盤型医学教育、コンピテンシー基盤型教育のコア領域として注目されているところです。本学の医学生全員が、高齢先進県となる島根県フィールドで地域の保健・医療・福祉・介護を実際に体験し、地域包括ケアシステムや今後求められる医師の資質についてじっくりと考察し、実践的なスキルが習得出来るような教育プログラムを目指していきたいと考えておりますので今後ともご協力お願い申し上げます。

また、地域医療学、地域医療セミナー、キャリアウエビナー、総合診療・地域医療クリニカルクラークシップにおいても多くの講師の先生方にお世話になり有難うございました。島根には、地域全体で医師を育てるといった魅力的な風土があると思っております。地域医療の課題は山積みではありますが、課題を解決すべき夢ととらえオールシマネで皆様と共に切磋琢磨を続けてまいりたいと思っております。

これらの講座の取り組みは、学内関係者をはじめ、島根県、市町村、県内医療機関、さらには全国の多くの皆さんの御支援によって、積み上げられてきたものです。今後も、地域医療支援学講座は与えられたミッションに基づき、島根県の地域医療の発展に、関係者の皆様とともに頑張っていこうと考えておりますので、引き続きご指導賜れますようお願い申し上げます。



# 島根大学医学部地域医療支援学講座メンバー紹介

## MEMBER

### 教員

教授	佐野千晶	平成31年4月～
助教	布野慶人	平成29年4月～
助教	堀田優希江	令和2年7月～
特任助教	宅野真由美	平成31年4月～

### 事務職員

事務補佐員	杉原眞司	令和元年8月～
特定職員	高橋和歌子	令和3年5月～
特定職員	楠田有希	令和3年5月～



島根大学医学部地域医療支援学講座  
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間



# 講座紹介

## COURSE

当講座は、地域医療教育学講座、地域医療政策学講座、総合医療学講座、卒後臨床研修センター、各診療科等の学内組織、そして島根県や市町村、しまね地域医療支援センター、地域医療機関等学外の関係機関と連携を図りながら、「学生が、地域医療に興味を持ち、地域医療へのモチベーションを膨らませるため、また、医師としてのキャリアアップと県内で安心して働ける環境づくりを支援する」ために、以下の様な取り組みに関わっている。

### 1 医学科学生教育

#### 《 学生教育 》

- 1年生：講義：地域医療学【必修】
- 3年生：研究室配属【必修】
- 4年生：男女共同参画講義（キャリア教育）【必修】
- 5年生：①臨床実習（地域医療・総合医療）【必修】 ②臨床実習（地域医療実習）【必修】
- 6年生：臨床実習（地域医療実習）【選択】
- 1年～6年夏期・春期休暇期間：地域医療体験実習Ⅰ（夏季・春季地域医療実習）【自由】
- 1年～6年通年 必修科目時間外：地域医療体験実習Ⅱ（フレキシブル実習）【自由】

#### 《 学生支援 》

地域医療 Webinar：学外講師招聘（年9回）、Career Webinar：学内講師招聘（年10回）  
ビデオセミナー（8月を除く月4回）、しまね総合診療の集い（年5回<sup>※</sup>）  
学生面談、学生と地域との交流支援、学生企画の支援 等  
<sup>※</sup>総合診療ブラッシュアップセミナー（年1回）、総合診療専門医プログラム説明会（年1回）を含む

### 2 医師のキャリア支援活動

地域枠等医師、奨学金貸与医師、その他希望者を対象にしたキャリア支援、総合診療専門医育成支援、しまね総合診療の集い（年5回）、しまね地域医療支援センター理事及び専任医師（教授）、Iターンを含む県内医師のキャリア支援、研修会等の託児支援

### 3 地域医療支援

地域医療システムマネジメント支援、ワークライフバランス支援（復職支援を含む）  
地域医療を支える住民活動支援、地域医療コーディネータ支援、地域医療研究会支援



# 1年間のあゆみ

## TIMELINE

### 1 学生教育

#### ① 地域医療学

平成28年度から医学科1年生を対象に地域医療学の授業を開講している。

【期 間】令和4年9月30日(金)～令和5年1月27日(金)

9月下旬より医学科1年生の「地域医療学」の授業が全面対面で始まった。学生達の声が始業着席まで学舎に響き、同期同士繋がりが持てていることに、何かしら嬉しさすら感じた。

地域医療学は、6年間を通した地域医療教育プログラムの最初の授業科目である。島根県の地域医療の実際を理解することに加え、医療を多元的な視点から理解をすることを目指している。臨床医のみならず、公衆衛生、歴史学、国際協力、患者会、地域医療を守り育てる住民活動を行う方等、学内外の講師と連携し実施している。多様なバックグラウンドを持つ個性豊かな講師陣の講義は、地域医療への指向性を高める第一歩になることが期待される。

また、夏季休暇中に地域医療体験実習Ⅰ・Ⅱに参加した学生の学びが、この講義を通じて統合されることや、新たな実習に導かれることも期待したい。



#### 令和4年度 地域医療学 授業日程表

回	月日	時間	場所	実施方式	授業内容	担当
1	9. 30(金)	13:00～14:40	P4	面接授業	地域医療とは	佐野
2	10. 7(金)	〃	〃	〃	離島の地域医療	白石
3	10. 14(金)	〃	〃	〃	市街地の地域医療	花田
5	10. 21(金)	〃	〃	〃	中山間地の地域医療Ⅰ	上野
4	10. 28(金)	〃	〃	〃	多職種連携Ⅰ	佐野
6	11. 4(金)	〃	〃	〃	中山間地の地域医療Ⅱ	角田
7	11. 11(金)	〃	〃	〃	多職種連携Ⅱ	佐野
8	11. 18(金)	〃	〃	〃	ネパールでの医療貢献：その限界と将来	森
9	11. 25(金)	〃	〃	〃	地域包括ケア	谷口
10	12. 9(金)	〃	〃	〃	公衆衛生行政と地域医療	村下
11	12. 16(金)	〃	〃	〃	高齢社会と地域医療	杉谷
12	12. 23(金)	〃	〃	〃	病院前救急	布野
13	1. 20(金)	〃	〃	〃	災害医療	渡部
14	1. 27(金)	〃	〃	〃	医学史—華岡流外科の普及と近代医学	梶谷



## ② 研究室配属

【期 間】令和4年8月29日(月)～9月30日(金)

当講座の研究室配属は、地域包括ケア実践コースで医療福祉連携プログラムと医療政策プログラムの内容を組んでいる。医学科3年生9名の学生が参加した。

学生達が当講座を選択した理由は、「地域医療に興味や関心があった」「地域住民や患者さんへの健康サポートに関心がある」「地域医療体験実習が面白く、より地域医療に関心を持った」等であった。

オリエンテーションでは、教授から「地域の医療やそれを取り巻く福祉の現状等に目を向けながら、人との親和性を持つコネクトする力で地域の方々とつながり、研究に発展してもらいたい」と挨拶があった。

前半は出雲・雲南・大田市で実習を行い、中盤から浜田市の旭町で浜田市参与の阿部先生にお世話になり、「旭町の暮らしと健康の取り組みから学ぶ」のテーマで実習に臨んだ。



## ③ 臨床実習入門特別プログラム 特別講演

【日 時】令和4年12月6日(火) 10:00～11:30

【場 所】看護学科棟N11

【対 象】医学部医学科4年生

【講 師】NPO法人ささえあい医療人権センター COML 理事長 山口 育子 氏

【テーマ】患者と向き合う 臨床実習直前の医学生の皆さんへ



## ④ 臨床実習入門特別プログラム 男女共同参画講義（キャリア教育）

4年次を対象とし、4コマの男女共同参画講義（キャリア教育）を行っている。本講義は島根県医師会と連携しながら実施している。



【日 時】 令和4年12月15日(木) 9:40～16:10

【場 所】 島根大学医学部P3教室（実習棟3階）

【対 象】 島根大学医学部4年生 106名

【主 催】 島根大学医学部地域医療支援学講座  
島根県医師会

【共 催】 日本医師会 島根大学ダイバーシティ推進室  
島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室

【内 容】 ① 講演及びワーク

広島大学医学部附属医学教育センター 教授 蓮沼 直子 先生

② キャリアモデルの紹介

島根大学医学部 呼吸器・臨床腫瘍学 学内講師 濱口 愛 先生

島根大学医学部 病理部 准教授 荒木 亜寿香 先生

島根大学医学部附属病院 高度脳卒中センター 副センター長 安部 哲史 先生

③ 島根大学男女共同参画の取り組み

島根大学学長特別補佐（男女共同参画担当）

河野 美江 先生（web）

④ 島根県「えんネット」の取り組み

島根大学医学部地域医療支援学講座

助教 堀田 優希江

【医師会特別講演】

「世界のコロナマネジメント」

WHO 感染症危機管理シニアアドバイザー

進藤 奈邦子 先生（web）



## ⑤ 臨床実習（総合医療・地域医療実習）

本実習は地域の診療所や医療機関（保健所も含む）において、同一の医療圏域で4週間の診療型参加型臨床実習を行っている。総合診療を実践する医療者の指導のもと、主体的に体験を通じて学ぶ。

当講座の教授は、実習前のオリエンテーションや4週間の実習最後に総括として行われるフィードバックに参加している。

■令和4年度 総合診療・地域医療実習スケジュール

	曜日	月	火	水	木	金
1週目	AM				14:00~15:00 「総合診療1週目の学び」 牧石 徹也 先生 zoom ※授業後提出物有 <del>り</del> 翌日中	
	PM				feedback 牧石先生：15:00～ 白石先生：15:00～ 木島先生：12:00～	
2週目	AM					
	PM	16:00~17:00 「プロフェッショナルリズム～俯瞰と匙加減～」 鬼形 和道 先生 zoom			feedback 牧石先生：15:00～ 白石先生：15:00～ 木島先生：12:00～	
3週目	AM					
	PM	16:00~17:00 「医療面接」 マルガリータ 先生 &木島 庸貴 先生 zoom  「医療面接におけるやさしい日本語」 牧石 徹也 先生 zoom		16:00~17:00 「患者中心の医療技法について」 高橋 賢史 先生 zoom		feedback 牧石先生：15:00～ 白石先生：15:00～ 木島先生：12:00～
4週目	AM					
	PM			16:00~17:00 「プライマリ・ケアのACCCA」 佐藤 誠 先生 zoom		13:00~16:00 学生の実習発表会 みらい棟ギャラクシー  16:00~17:00 フィードバック (Web) 指導医・大学関係者

※白紙部分は、各実習先病院メニュー

島根大学医学部地域医療支援学講座  
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

## ■令和4年度地域医療実習教育連絡会

本学学生は、大学病院では経験できない様々な医療の側面を、県内の地域医療機関で実習を通して学ぶ。医療全体を見渡すことのできる広い視点を養い、医療の本質に対する理解を深める。この地域医療実習を更に充実させるため、県内医療機関を8つのブロックに分け、地域医療教育に携わる本学医学部教員と各ブロックの実習担当者と意見交換を行っている。

地域医療教育連絡会は、新型コロナウイルス感染症の為オンラインで実施され、当講座教授が下表ブロックを担当した。

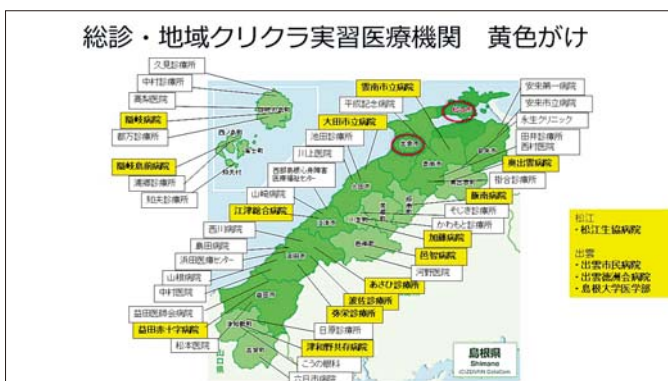
圏域	日程
出雲	10月17日(月) 18:00~
江津・浜田	10月24日(月) 18:00~
益田・津和野	10月31日(月) 18:00~

## ■総合診療・地域医療クリニカル・クラークシップ説明会

【対象】 島根大学医学部医学科4年生

【日時】 令和4年10月19日(水) 13:50~15:00

【場所】 N11講義室



## ⑥ 地域医療体験実習Ⅰ（夏季・春季地域医療実習）

島根大学医学部では島根県と連携して、地域の医療機関での活動や連携を体験・学習し、地域医療や公衆衛生業務に対する理解を深めることを目的とする夏季・春季地域医療実習を行っている。

**令和4年度 島根大学医学部**  
**夏季地域医療実習**  
 申込べ切 7/4(月)  
 8月22日(月)~26日(金) ※期間内の数日間実施

**費用補助あり**  
 宿泊費・保険料などは島根大学が負担  
 ※参加学生は、本学の負担により県内旅行傷害保険に加入します。また、本学医学部から実習地区までの旅費（交通費・宿泊費・日当）を島根大学から支給します。旅費については本学規程に基づき、実習先・日程等をもとに算出した定額を支給します。

**実習地区は選択可能**  
 島根(島根) 出雲(出雲) 松江(松江) 浜田(浜田) 雲南(雲南)  
 ※希望者数が定員を超過した場合は第2希望以降に回っていただく可能性があります。

**申し込み・問い合わせ先**  
**募集要項・申し込み方法はホームページをご覧ください**  
<https://www.med.shinane-u.ac.jp/school-life/sscat/index.html>  
 島根大学医学部学務課 教育改革・教務担当  
 〒693-0301 島根県出雲市福谷町9-1  
 TEL: 0853-20-2085  
 E-mail: kyomu@med.shinane-u.ac.jp

**令和4年度 島根大学医学部**  
**春季地域医療実習**  
 申込べ切 1/23(月)  
 令和5年3月13日(月)~3月16日(木) ※期間内の数日間実施

**費用補助あり**  
 宿泊費・保険料などは島根大学が負担  
 ※参加学生は、本学の負担により県内旅行傷害保険に加入します。また、本学医学部から実習地区までの旅費（交通費・宿泊費・日当）を島根大学から支給します。旅費については本学規程に基づき、実習先・日程等をもとに算出した定額を支給します。

**実習地区は選択可能**  
 島根(島根) 出雲(出雲) 松江(松江) 浜田(浜田) 雲南(雲南)  
 ※希望者数が定員を超過した場合は第2希望以降に回っていただく可能性があります。

**申し込み・問い合わせ先**  
**募集要項・申し込み方法はホームページをご覧ください**  
[URL: https://www.med.shinane-u.ac.jp/school-life/sscat/index.html](https://www.med.shinane-u.ac.jp/school-life/sscat/index.html)  
 島根大学医学部学務課 教育改革・教務担当  
 〒693-0301 島根県出雲市福谷町9-1  
 TEL: 0853-20-2085  
 E-mail: kyomu@med.shinane-u.ac.jp

### ■令和4年度地域医療体験実習Ⅰ（夏季地域医療実習）

【期 間】 令和4年8月22日(月)～25日(金) 報告会8月26日(金)

島根県7圏域の保健所に計画頂いた夏季地域医療実習は、新型コロナウイルスの急激な感染拡大のため、2圏域が中止になった。当初27名のエントリーであったが、5圏域での開催となり16名の学生が参加した。実習は保健所とその圏域の医療機関や福祉施設での実習が生まれ、多様な学びができるようご配慮頂いた。

また、今回は他大学からの参加者も多く、大学や学年の垣根を越えての交流が図れ、教員の巡回時にも微笑ましい姿が見受けられた。この繋がりが学生達の今後に新たな“えにし”を紡ぐのではないかと感じられた。

報告会はオンラインであったが、3グループに分かれ「一番印象に残った体験」「地域医療の良いところ・課題」「地域医療の課題の解決策」の3テーマについて学びを共有し、代表者が発表を行った。有意義な実りある実習であったことが伺えた。

島根大学医学部地域医療支援学講座  
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

# 1年間のあゆみ

【期間】 8月22日(月)～25日(木)

報告会 8月26日(金)

実施機関	地区等	日程	参加人数
松江保健所	松江	8月22日(月)～8月24日(水)	2
出雲保健所	出雲	8月23日(火)～8月25日(木)	2
浜田保健所	浜田	8月22日(月)～8月24日(水)	3
益田保健所	益田	8月23日(火)～8月25日(木)	3
隠岐保健所	島後	8月22日(火)～8月25日(木)	3
	島前	8月22日(火)～8月25日(木)	3

参加者合計 16名

## 学年別内訳

1年	2年	3年	4年	5年
6人	3人	4人	1人	2人

## 大学別内訳

島根大学	鳥取大学	岡山大学	筑波大学	東京医科歯科
11人	1人	2人	1人	1人



## ■令和4年度地域医療体験実習Ⅰ（春季地域医療実習）

【日 時】 令和5年3月13日(月)～3月17日(金)

【参加者】 22名 大学：島根大学21名、千葉大学1名

学年：1年12名、2年4名、3年5名、4年1名

今年の冬は新型コロナウイルスと季節性インフルエンザが同時流行した。春季実習を前に新型コロナウイルス感染者の減少が見られ、春季・夏季実習では1年半ぶりに島根県全域で実習を行うことになった。

開始1週間前には、佐野教授から「Keep an open mind, be brave and have fun!!」のタイトルで実習前オリエンテーションが行われた。“実習の意義”、“実習を楽しむための準備”、“感染拡大防止対策”等が伝えられた。

保健所ではオリエンテーションとして、各圏域の概況や地域医療についてのお話を伺った。参加者は低学年が多いが、臨床の知識が少ない中でも地域医療の現状について肌で体感し、これから更に地域医療へのモチベーションを上げてもらいたい。

【期間】 令和5年3月13日(月)～16日(木)

報告会 3月17日(金)

実施機関	地区等	日 程	参加人数	
松江保健所	松江	3月13日(月)～3月16日(水)	2	
雲南保健所	雲南	雲南市立病院	3月13日(月)～3月15日(水)	2
		町立奥出雲病院	3月13日(月)～3月15日(水)	2
		飯南病院	3月13日(月)～3月15日(水)	1
出雲保健所	出雲	3月13日(月)～3月15日(水)	2	
県央保健所	県央	3月13日(月)～3月14日(火)	2	
浜田保健所	浜田	3月13日(月)～3月15日(水)	3	
益田保健所	益田	3月13日(月)～3月15日(水)	3	
隠岐保健所	隠岐	島後	3月13日(月)～3月16日(木)	3
		島前	3月13日(月)～3月16日(木)	2

参加者合計 22名

学年別内訳

1年	2年	3年	4年
12人	4人	5人	1人

大学別内訳

島根大学	千葉大学
21人	1人

## ⑦ 地域医療体験実習Ⅱ（フレキシブル実習）

島根の地域医療に対する理解を深めてもらう為に、学生自らが、希望実習病院にコンタクトをとり、実習内容を計画立案する実習である。今年度は、地域医療研究会（学生サークル）、を含む延べ34名の学生から申し込みがあった。しかし、計画・申請の後いずれも島根県内に新型コロナウイルス感染症の発症があり、うち4名が実習中止となった。

### ■令和4年度地域医療体験実習Ⅱ（フレキシブル実習・ポストコロナ事業実習）参加者

施設名	期間		医学科						看護科	小計	備考
	自	至	1年	2年	3年	4年	5年	6年	3年		
大田市立病院	令和4年7月25日	令和4年7月29日							1	1	
隠岐広域連合立 隠岐病院	令和4年8月8日	令和4年8月10日	1 (1)							1	中止
浜田市国民健康 保険弥栄診療所	令和4年8月15日	令和4年8月17日	1	4		1				6	
◇哲西町診療所 (岡山県)	令和4年8月21日	令和4年8月24日	3			1			※1	5	
◇観音寺市国民 健康保険伊吹 診療所 (香川県)	令和4年8月22日	令和4年8月22日	(1)								中止
◇小豆島中央病院 (香川県)	令和4年8月23日	令和4年8月26日	1 (1)			1				2	中止
◇日南町国民健康 保険日南病院 (鳥取県)	令和4年8月29日	令和4年8月31日	1		2					3	
東京ふれあい 医療生活協同 組合梶原診療 所(東京都)	令和4年9月5日	令和4年9月7日	1							1	
浜田市国民健康 保険波佐診療所	令和4年11月4日	令和4年11月6日		3	1					4	
	令和4年11月5日	令和4年11月5日	1							1	
	令和4年11月6日	令和4年11月6日	1							1	
	令和4年12月25日	令和4年12月26日		1						1	
	令和5年1月23日	令和5年1月23日		(1)							中止
令和5年2月16日	令和5年2月16日	1	3						4		
合計			11	11	3	3		1	0	30	

※看護学生1名については「フレキシブル実習に準じた自主企画型課外活動」として参加した。

◇印はポストコロナ事業実習（ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業）



## ■プライマリ・ケア連合学会・学術集会参加報告

### 地域医療体験実習Ⅱ（フレキシブル実習）報告会（Web開催）

【日 時】 令和4年6月27日(月) 18:00~19:30

【参加者】 第13回プライマリ・ケア連合学会学術集会 報告2名（個別報告1名）  
地域医療体験実習Ⅱ報告7名（個別報告5名）

【概 要】 学会報告は、学会企画運営に携わった学生とポスター発表者の2人であった。学会運営側の学生は初の学会を「激アツな2日間」と表現し「今島根が熱い」との会場の声に感動を覚えたと報告があった。また、自身の活動報告をした学生は、フロアからの質問に「自分自身を深堀できた」と学びを表現したのが印象的であった。

フレキシブル実習は、隠岐病院と弥栄診療所で実習を行った2グループの報告が行われた。何れも受け入れ側の病院で学生達の目的が達せられるようにご準備頂き、学びの深い実習であったことが伺えた。

報告を受ける側も初めて知る「地域の声」や「対象を捉える理論」の紹介に、ナラティブに耳を傾ける Narrative-based-Medicine の重要性について認識を新たにした。

教授は、らせん状に学びを深めるスパイラルカリキュラムについて“学びの支援の仕掛け作り”について構想を語られた。



## ■第13回日本プライマリ・ケア学会学術大会 学生参加

演題「やさしい日本語という技術」

医学科3年 大井礼美さん

人生初の学会に、活動報告を通じて「やさしい日本語普及」をすべく参加しました。学会というと気難しい厳かな雰囲気想像していましたが、会場は熱気に溢れていました。全国の幅広い珍しい取り組みから、医学的研究・知見に至るまで、分野にとらわれず様々なものに触れられてわくわくしました。

プライマリ・ケアというキーワードを通じ知り合えた、普段では関われない学生や先生方との繋がりは今後も大切にしたいです。プログラムでは臨床研究の口演も拝聴し、いつか自分も有用な情報を提供できるようになりたいと実感しました。



「Youは何しに学会へ？」企画運営!! プライマリ・ケアとの激アツな2日間in横浜

医学科3年 中尾光希さん

普段オンラインで繋がっている全国の総合診療マインドを持った熱い仲間や先生方と初めてオンサイトで会うことができました。横浜に滞在中は朝から晩まで総合診療や将来を語り合い、知識面でも精神面でも吸収できることが多く、今でも余韻に浸っています。2日間を通して1番感動したことは、全国の総合診療医の先生方とお話していると、「島根熱いね〜！」と声をかけられることが多かったことです！全国各地の良さを知り、改めて島根の良さを知れた学会でした。この学びをこれからの学生生活に活かしていきたいです。



## ■地域医療体験実習Ⅱ（フレキシブル実習）・ポストコロナ事業実習報告会（Web開催）

【日時】 令和4年12月19日(月) 18:00~19:30

【参加者】 学生14名

【概要】 令和4年7月から11月の期間に地域医療体験実習Ⅱ（フレキシブル実習）とポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業の実習に参加したのは、延べ25名であった。

県内を主体にした地域医療体験実習Ⅱには、大田市立病院・隠岐病院・浜田市弥栄診療所・浜田市波佐診療所にご協力を頂いた。

ポストコロナ事業実習では、岡山県哲西診療所、香川県小豆島中央病院、鳥取県の日南病院にご協力を頂いた。

報告は臨地での実習指導を通して多くの学びがあり、これからの課題も明らかにしていた。中でも印象的であったのが6年生の報告で、自身の実習で問われた「医師の多様性」について、症例の設問を加えて低学年の学生に投げかけるプレゼンが行われた。自己の学びを、切り口を変えて参加学生に思考させる。まさに学びの共有で“ブラボー”な報告であった。

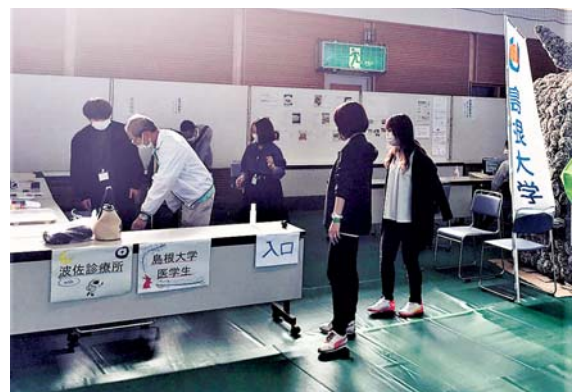


## ■フレキシブル実習「金城町さざんか祭り」に参加して 医学科2年 藤澤 舞さん

11月5・6日、金城町で開催された“さざんか祭り”に医学科の仲間達と「島根大学医学生 with 波佐診療所」のブースを出展した。医師や看護師の指導を受け、血圧・血管年齢・体組成測定等を行った。準備や運営にあたっては、地域で活躍する医師・看護師・行政の方の働き方や、地域住民への関わりを間近で見せて頂き、医師の役割やコミュニケーションの取り方等多くの事を学んだ。

また、事前学習を含めて金城地域における健康問題やそれに対して行政・医療機関が行っている健康増進活動等についても学ぶことができた。さらに、地域の方とも直接対話をすることができ、住民の皆さん自身の健康問題に対する認識や普段の生活の様子、困っていることなどをヒアリングすることができた。生活のために車が必須で、歩く習慣があまりない事等、地域特有の事情を直接聞くことができた。

実習は受け身ではなく、自分達でテーマを設定し地域の人に向けて積極的に発信することで、より学習の定着化が図れることを実感した。今後の大学やサークルでの学習活動に取り入れていきたい。



## ⑧ 大学院教育

島根大学大学院医学系研究科医科学専攻（博士課程）

地域医療系コース

指導教員：佐野 千晶

客員研究員：太田 龍一

大学院生

天野 志保（総合診療専攻医）

田中 悠大（総合診療専攻医）

池田 啓孝（総合診療専攻医）

西川 香澄（研修医）

内藤 祐美（総合診療専攻医）

藤森 太一（研修医）

西倉 希（総合診療専攻医）

堀西 祐多（総合診療専攻医）

毛利 直人（総合診療専攻医）

馬淵 沙弥佳（内科専攻医）

山根 史子（総合診療専攻医）

馬淵 寛也（総合診療専攻医）

## ■地域医療リサーチセミナー：山陰リサーチミーティング

### 【主催者】

鳥取大学医学部地域医療学講座 孫 大輔 先生

雲南市立病院地域ケア科／島根大学医学部地域医療支援学講座 太田 龍一 先生

### ●第5回

【日 時】 令和4年7月10日(日) 13:00～

【場 所】 Web開催

【演 題】 I. 「地域病院における診断エラーの現状と  
それに関連する要因」

藤森 太一（島根大学医学部附属病院）

II. 「地域医学部生の総合診療へのモチベーションと関連する要因」

西川 香澄（宇治徳洲会病院）

III. 「乳幼児の生育背景と頭部打撲の関連」

後藤 保（鳥取県立中央病院 小児救急集中治療科）



### ●第6回

【日 時】 令和4年9月11日(日) 13:00～

【場 所】 Web開催

【演 題】 I. 「僻地病院における骨粗鬆精査の現状」

馬淵 沙弥佳（飯南町立飯南病院）

II. 「髄液検査結果と

その原因疾患との関連性」

毛利 直人（雲南市立病院）

III. 「プライマリ・ケア医が主催する健康カフェの参加者・クリニック・地域に  
対する影響と価値」

孫 大輔（鳥取大学医学部）



### ●第7回

【日 時】 令和4年12月25日(日) 13:00～

【場 所】 Web開催

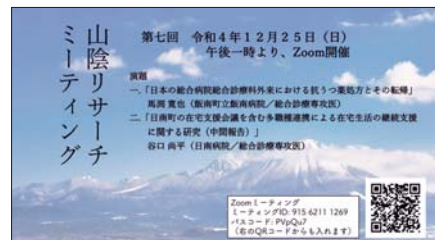
【演 題】 I. 「日本の総合病院総合診療科外来に  
おける抗うつ薬処方とその転帰」

馬淵 寛也

（飯南町立飯南病院／総合診療専攻医）

II. 「日南町の在宅支援会議を含む多職種連携による在宅生活の継続支援に関する  
研究（中間報告）」

谷口 尚平（日南病院／総合診療専攻医）



## 2 学生支援等

### ① 地域医療 Webinar

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症のため引き続きオンラインで開催した。

#### 第1回 地域医療 Webinar

【テーマ】 地域で迷うこと、あなただったらどうしますか？

【日時】 令和4年4月12日(火) 18:00~19:00

【講師】 浜田市国民健康保険あさひ診療所  
所長 上野 伸行 先生

【参加者】 38名

【概要】 先生は「地域を疑似体験できるセミナーを目指します！」と講師をお引き受け頂いた。疑似体験は2症例を提示され、学生に“あなただったらどうしますか？”と問いかけをしながら対話形式で学生の思考を引き出され、その後、先生ご自身がどのように対応されたのかフィードバックが行われた。

また、対象を総合的に診るとはどういうことなのか、対象の健康問題を疾患（disease）として生物医学的に捉えるだけでなく、病い（illness）の視点から捉えることも大事であり、且つ対象やその家族の背景・文脈を考慮することの重要性を教示頂いた。更に医師を志した初学者である学生達に対象理解の有効な枠組みとして示唆を与える『生物・心理・社会モデル（bio-psycho-social model）』を紹介頂いた。

終了後学生からの多数の質問と感想が寄せられ、ロールモデルとしての先生のご活躍が益々期待される。



#### 第2回 地域医療 Webinar

【テーマ】 緩和ケアと在宅医療の歴史から考える在宅医療の基本的価値と在宅医療のプロフェッショナルリズム

【日時】 令和4年5月13日(金) 18:30~19:30

【講師】 東京ふれあい医療生活協同組合 研修研究センター  
センター長 平原 佐斗司 先生

【参加者】 19名

【概要】 先生は「1. ケアと医療の発生と歴史」「2. 時代とともに変わる緩和ケア」「3. 在宅医療の歴史と基本的価値」「4. 在宅医のプロフェッショナルリズム」の4部構成でお話し頂いた。

ケアと医療・緩和ケアの歴史は、事象の意味・変遷だけでなくその関連を多面的に捉えることができ、3・4部に繋がる基本的な知識となった。

昭和50年代、在宅医療の先駆者たちが示した“基本的価値”は『患者中心：患者はhost 医療者はguest 医の本質はservice』『暮らしの場で最期の時間を支える』等を紹介された。その基本的価値は今なお在宅医療の根底に連綿と受け継がれ、偉大な足跡を残した先人が偲ばれた。

在宅医療の基本的価値・プロフェッショナルリズムは、学生達にとって医学を学ぶ意味や価値について認識を新たにし、自らに問い考えていく事の大切さを教示頂いたように考える。



## 第3回 地域医療 Webinar

【テーマ】 総合診療の魅力  
 【日時】 令和4年6月13日(月) 18:00~19:00  
 【講師】 大田総合医育成センター  
 講師 木島 庸貴 先生

【参加者】 18名

【概要】 先生は、現在診療されている病院と診療所の2症例を提示され、総合診療医の診断過程を紹介頂いた。いずれも単純な生物学的評価と治療のみでは解決できない問題を抱えた症例で、健康問題に影響を与える社会的な側面や心理的側面を具体的に説明頂き、どのようにアプローチをされたのか教示頂いた。総合診療専門医の定義にある「扱う問題の広さと多様性」、「多面的な側面から診断」等、言葉の理解だけでなく状況の想起や複眼的思考の理解に繋がった。

最後に総合診療の魅力を「診療で取り扱う問題の広さと多様性」「病院総合診療としての楽しさ（総合診療医の視点による評価や役割）」「診療所医師としての継続的な関わり、アクセスの良さから生まれる関係性の構築と患者理解の深まり」「地域という視点での健康問題にアプローチする活動」の4つにまとめられた。



## 第4回 地域医療 Webinar

【テーマ】 精神科医「も」いろいろやっています  
 【日時】 令和4年7月20日(水) 18:00~19:00  
 【講師】 島根県立こころの医療センター精神科  
 部長 高尾 碧 先生

【参加者】 25名

【概要】 先生は学生時代の心肺蘇生法サークル、医師になり東日本大震災の医療救護班参加、DMAT隊員登録、mass gathering medicineの経験等が現在のDPAT事業に繋がっていると話された。活動の実際についてもデータや画像を基に教示頂いた。「災害への対応は社会の成熟度を示す。災害支援に行く事だけが災害対応ではない。自分の地域での脆弱性を無くす取り組みが重要である。」と話され印象に残った。

また、これからは「精神科（医）に対するネガティブな印象を払拭できるように、ポジティブな側面や面白さを伝えていきたい。」と話された。

先生の語りは弁舌爽やかに淀みがなく、聴き手側の集中力を最後まで切らすことがなかった。先生の基本的なスタンスは「迷った時の返事は2つに1つ『はい』か『YES』」「機会を逃さず前のめりにやる」だそうである。今回のテーマと全てが象徴的に繋がった。



島根大学医学部地域医療支援学講座  
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

## 第5回 地域医療Webinar

【テーマ】 2022年度版 地域の小規模多機能病院について

【日時】 令和4年10月7日(金) 18:00~19:00

【講師】 気仙沼市立本吉病院

院長 齊藤 稔哲 先生

【参加者】 25名

【概要】 大きな病院の役割と臓器別専門医の関わり、小さな医療機

関の役割と総合診療医の関わりを対比させる形で、その役割の違い

を明快に説明頂いた。小さな医療機関は「生活が脅かされないよう

に見えない危機を回避し、住民の生活に伴奏する」総合診療医は「自分がいる場所に求められ

ている医療の形を見極め、その形を提供できるように知識と技術を習得し、その場所に関わる

連携が深まるように調整する」と教示頂いた。

先生は「患者さんの困りごとを診るのではなく、困りごとを持つ患者さんを診る」、「地域で困っている方を見過ごさない」そして「総合診療医は1人の人を身体と精神に分けず、身体を臓器別に分けず、一人の人として診療する」と話された。

先生のプロフェッショナルとして実践知から本質を射抜くメッセージは、いつもながら奥が深く厚みがあり心に刺さった。



## 第6回 地域医療Webinar

【テーマ】 病院の外で医療をすること

～ドクターヘリ、船医、山岳医の経験～

【日時】 令和4年11月29日(火) 18:00~19:00

【講師】 県立広島病院 救急科

部長 日下 あかり 先生

【参加者】 51名

【概要】 日下先生は島根大学26期生である。島根大学医学部附属病

院で2年間の研修を経て、麻酔科に入局された。現在は県立広島病

院の救急科にご勤務である。

今回、自身の生い立ちから学生時代、麻酔科入局から救急医への挑戦等、興味深いお話をさせて頂いた。先生は特に病院の外で医療することに興味を持たれ、ドクターヘリ、船医、山岳医や、消防と連携してメディカルラリーの開催、医療講習会のインストラクター取得等、その活動は多岐にわたり、お話は圧巻であった。また、本ウェビナーの参加者は医学生や病院関係者だけに留まらず、消防・海上保安庁等公安機関まで多方面の方に聴講頂いた。

参加者の「そのパワーの源は？」の質問に対して「素直な気持ちを忘れず、広い視野で自分にできることを増やしていく。そのためには健康が一番」と回答されたのが印象的であった。



## 第7回 地域医療 Webinar

【テーマ】 診療看護師って何者ですか？

～実際に離島で働くS氏の場合～

【日時】 令和4年12月16日(金) 18:00～19:00

【講師】 隠岐広域連合立隠岐病院 診療部

診療支援室室長 兼 総合診療科診療看護師 芹田 晃道 先生

【参加者】 20名

【概要】 先生は看護師・臨床工学士の資格を持ち、2013年に診療看護師を取得され10年目を迎えられる。これ迄急性期・僻地医療の経験を持たれ、現在4施設目の隠岐病院に従事されている。

最初にナースプラティクショナーの歴史を辿り、続いて日本における診療看護師の役割や求める能力を説明頂いた。隠岐病院では「入院患者の疾病管理・患者搬送支援、訪問診療への介入」等、院内外でご活躍である。診療看護師赴任による病院の変化を裏付ける、元同僚の医師からのメッセージや訪問診療件数・在宅看取りの増加等数字でお示し頂き、その専門性が高く評価されていることが分かった。

先生の「多職種に対するリスペクト」がとても印象に残った。チーム医療を実践する上で、多職種の専門性を理解していく事は互いの信頼性を獲得することに繋がり、さらに協働関係を促進する上で重要であることを学んだ。



## 第8回 地域医療 Webinar

【テーマ】 食べることができなければ病気も防げない！

【日時】 令和5年1月27日(金) 18:00～19:00

【講師】 島根県立大学 看護栄養学部 健康栄養学科  
講師 中畑 典子 先生

【参加者】 14名

【概要】 中畑典子先生は現在、島根県立大学看護栄養学部健康栄養学科で勤務されている。以前は、当講座の教員として、医学生の教育に携わられていた。

今回、世界の栄養問題（先進国・開発途上国）、トンガ王国での栄養指導や調理指導、栄養素（5大栄養素・新しい栄養素）等のお話をしていただいた。生活習慣病等の発症因子としての食事や、高齢者の栄養補給についての社会的関心が近年において高まっており、医療従事者はよりの確かな栄養知識・スキルを求められている。そうした中で、大変有意義なセミナーであった。

栄養は、人間にとって不可欠であり、栄養の不足や過剰摂取は健康を損ね、病気の原因にもなりうる。世界的にも「飢えや肥満」が問題視されている中で、今一度、栄養＝食べることに、今一度、見つめなおす必要があると感じた。



島根大学医学部地域医療支援学講座  
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間



第9回 地域医療Webinar

【テーマ】 益田医療圏域における医療連携再構築の現状2023

【日時】 令和5年2月13日(月) 18:00~19:00

【講師】 益田赤十字病院  
 病院長 木谷 光博 先生

【参加者】 23名

【概要】 前半は病院管理者・経営者としての観点から、後半は人材育成の見地から多くのメッセージを頂いた。最初に島根県の医療事情及び益田圏域の病床機能について、地域医療構想をベースに医療連携協定を結ばれている病院を例に挙げてお話し頂いた。学生達には地域医療のキーワードを示しながら、学習の必要性を伝えられた。

後半は、先生が尊敬される緒方洪庵と中村哲医師の名言を紹介され『医の精神』を教示頂いた。また、学生達に「皆さんにはぜひ地域での経験をしてもらいたい。本当に困っている方と話すこと、そこで一生懸命働くスタッフと語り、そして患者さんを診察するという経験は、長い医師キャリアの中で必ず最も重要なパートになる。自分の存在価値を知り、もっと勉強しなくてはと、医師としてのモチベーションも高まる。」とメッセージが贈られた。



島根大学医学部地域医療支援学講座  
 メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

## ② Career Webinar

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症のため引き続きオンラインで開催した。

### 第1回 Career Webinar

- 【テーマ】 想像していなかった現在の自分
- 【日時】 令和4年4月11日(月) 12:15~12:45
- 【講師】 島根大学医学部内科学講座内分泌代謝内科  
講師 守田 美和 先生

【参加者】 27名

【概要】 先生は、現在内分泌代謝内科の講師として外来医長・教育長を務めておられる。大学での医師の役割は「教育・診療・研究」の3本柱に「プラスα」があると話された。未だに答えのない病気も沢山あり、患者さんを大事に診ていく中で答えを見つけることも重要な役割であると「プラスα」を説明された。

また、糖尿病に関する正しい知識普及の為“出雲大社のブルーライトアップ”の活動や、昨年は“お散歩チャレンジGo to トロント”の実施、糖尿病療養指導士の育成、小児糖尿病1型の患者支援キャンプ、加えてDMATとしての活動等多彩に活躍されている。

常に患者さんと共に歩もうとする先生の姿勢は、先生が“目指す診療スタイル”でご紹介された「守田先生にお会いすることができて、糖尿病になったけど良かったと初めて思いました。」のメッセージにしっかり届いていることが分かる。



### 第2回 Career Webinar

- 【テーマ】 学位って知らないの？専門医って？  
海外留学するためには？

- 【日時】 令和4年5月18日(水) 12:15~12:45
- 【講師】 島根大学医学部外科学講座 呼吸器外科  
教授 山根 正修 先生

【参加者】 13名

【概要】 意味深長な疑問文のテーマは開催まで大変興味をそそられた。先生は医師としてのキャリアに学位・専門医・留学の3つは一言でいうと“知らない”と説明された。

キャリアは客観的キャリアと主観的キャリアがある。学位等は経歴としての客観的キャリアで、主観的キャリアはどのようなキャリアを歩みたいのか、客観的キャリアについてどう考えるか、自己への3つの「問い」から生まれると教示頂いた。その問いは、“①才能、②動機、③価値観”で、自らの自己イメージを形成し年々自分の中で涵養されて自己認識を深め、アイデンティティの獲得にも繋がるとお話し頂いた。

学位・専門医・留学は、自分が理想とする医師像に近づくためにはどのようなキャリアが必要かと考える時に附随してくるもので、まずは主観的キャリアの価値観を問うことが大事であることを学んだ。



## 第3回 Career Webinar

【テーマ】 学生のあなたに伝えたいこと「感染症科医編」

【日時】 令和4年6月1日(水) 12:15~12:45

【講師】 島根大学医学部附属病院感染制御部  
准教授 羽田野 義郎 先生

【参加者】 27名

【概要】 先生は、臨床感染症医・感染症コンサルタントとして活躍されている。臨床感染症医は感染症診療・感染対策・感染症疫学・予防医療が主な領域であり、感染症コンサルタントとして診療科からの相談に答えている。コンサルトの対象はすべての診療科であり、各診療科で求められる知識は異なり、薬剤・解剖・治療法など幅広い知識が求められる。

先生は、感染症を防ぐ仕事がしたいとの考えから、当時は珍しい臨床感染症医の道を選ばれ、日本各地や海外での研修を積まれた。キャリアについて、学生に「自分のキャリアは自分で決めるしかない。先を見据えた計画を立てる。」ことをアドバイスされた。

更に、「卒業後の評価は学生時代の成績に相関はなさそう」と私見を述べられ、卒業後の環境などで「Change Agent」となることが大いにあると話され、とても勇気づけられた。



## 第4回 Career Webinar

【テーマ】 流されるままに…

【日時】 令和4年7月6日(水) 12:15~12:45

【講師】 島根大学医学部環境保健医学講座 環境予防医学  
准教授 田村 太郎 先生

【参加者】 11名

【概要】 先生は京都生まれの大阪育ち、時折混じる関西弁のイントネーションと笑いを交えながらお話しされる姿には、親しみと誰からも好かれる、愛されキャラを彷彿とさせるものがあつた。

前任の福井市保健所でのコロナ対応から「感染症と人権の問題、リスクコミュニケーションの問題」等を提起頂いた。また「症例定義」について教示を受けた。

先生はご自身のキャリアについて、仕事上の転機となるワードは臨床・研究で携わってきた「呼吸器」でつながると振り返られ、タイトル通り流れに逆らわず現在に至るとまとめられた。

学生には「やりたい事があればその事に邁進し、なければ自分の興味ある事を掴み育てていくことにより、キャリアアップにつながる」とメッセージを贈られた。

学生からは「今後のキャリアを考える上での一つの選択肢になった」と感想が寄せられた。



## 第5回 Career Webinar

- 【テーマ】 キャリアを積む上での心得
- 【日時】 令和4年9月20日(金) 12:15~12:45
- 【講師】 島根大学医学部附属病院 高度外傷センター  
講師 比良 英司 先生
- 【参加者】 29名

【概要】 先生は現在、高度外傷センターの講師として“島根県の Preventable trauma death を0%にしたい”とご活躍である。先生は外科に入局されたのち大学外の病院も経験され、外科・麻酔の技術はもとより心肺蘇生法等のスキルも高めていかれた。その後、救命救急に強く惹かれるものがあり、りんくう総合医療センターで救急救命医としての一步を踏み出された。

同センターで働いている時に『島根大学高度外傷センター』立ち上げのスタッフの一人として声がかかった。「どっちか迷ったら、険しい道を進め」との先輩の教えに、島根に帰ってこられた。3名の医師で始め、未開拓の分野であったが「できない理由を探すな！何からだったらできるのか、前向きに考えよう！」と声を掛け合い、現在の高度外傷センターへと発展していく基礎を築かれた。

先生の熱いお話しから刺激を受けた講演であった。



## 第6回 Career Webinar

- 【テーマ】 消化器内視鏡医のしごと
- 【日時】 令和4年10月24日(月) 12:15~12:45
- 【講師】 島根大学医学部附属病院光学診療部  
部長/准教授 柴垣 広太郎 先生
- 【参加者】 12名

【概要】 内視鏡的粘膜切除術や内視鏡的粘膜下層剥離術等、治療の実際を動画で見せて頂いた。また、消化器疾患の診断や治療における内視鏡の需要は拡大し、診断・治療技術の向上は治療成績を大きく改善していると教示頂いた。

先生は優れた知識や卓越したスキルを持つためには、基本的手技が確立し、多くの症例が経験できるハイボリュームセンターでの自己研鑽が必要であると話された。先生も医師5年目から県外での研修を教授に交渉し、淀川キリスト教病院や佐久総合病院で多くの症例を経験された。「そこで得た知見や技量はそれまでのものを劇的に向上させるものであった」と医師としての成長を振り返られた。高度なスキルを獲得する過程には、経験の長さだけでなく、良質な経験を積むことが大事であることを示唆され、質の高い経験を能動的に求めていくことの重要性を教示頂いた。



島根大学医学部地域医療支援学講座  
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

## 第7回 Career Webinar

- 【テーマ】 半分見せます！学生時代  
 【日時】 令和4年11月30日(水) 12:15~12:45  
 【講師】 島根大学医学部皮膚科学講座  
 教授 山崎 修 先生

【参加者】 22名

【概要】 先生のお話は、「テーマを『全部』としていたが、時代も変わり今は通用しないこともある。保身のために『半分見せます！』とした」と苦笑い交じりの正直な一言から始まった。

しかし、期待は裏切らず！！学生時代は野球とウインドサーフィンの部活動に全力投球、身体は大学に向かわず波を求めて自然と久村海岸の方向へ向かわれたそうである。ウインドサーフィンに掛かる経費の為に、アルバイトは家庭教師から出雲大社の夜間警備等、これも全力投球である。加えて成績表の開示とハンコ貰いの行脚を“ピー音”も入れず激アツな内容をサラリとお話し頂いた。視聴者の多くは「本当に半分!？」と頭の中を過ぎったはずである。

島根大学では皮膚がんや皮膚細菌感染症を取り入れ、短期目標に「皮膚がん診療の拠点を目指す」、中期目標には「地域の診療科体制の整備」を挙げられた。



## 第8回 Career Webinar

- 【テーマ】 女性に寄り添う産婦人科のしごと  
 【日時】 令和4年12月21日(水) 12:15~12:45  
 【講師】 島根大学医学部産婦人科講座  
 助教 山下 瞳 先生

【参加者】 15名

【概要】 先生は群馬県のご出身で、高校時代に産婦人科医になりたいと島根大学に入学された。産婦人科は女性にとっては欠かせない診療科である。産婦人科は①生殖②周産期③腫瘍④女性医学が主な柱となっている。生殖は内分泌にかかわる分野であり、腫瘍は手術にもかかわる分野であり、産婦人科一つの中でも内科的要素から外科的要素まで多岐にわたっている。先生自身は産婦人科専門医取得され、医学博士も取得されて順調にキャリアを積まれてこられた。

仕事ばかりではなく、趣味や息抜きも大事であることをお話しされ、旅行や音楽鑑賞で忙しい日々の疲れを癒しているとお話しされた。笑顔の可愛い先生であり、激務のイメージのある産婦人科でも頑張っていけることを教えて頂き、今後の進路を考える際に役に立つ内容であった。



## 第9回 Career Webinar

- 【テーマ】 病理医になる方法教えます！
- 【日時】 令和5年1月16日(月) 12:15~12:45
- 【講師】 島根大学医学部病理学病態病理学  
教授 新野 大介 先生



【参加者】 15名

【概要】 新野先生は令和4年8月1日に病態病理学の教授として着任された。長崎大学のご出身で学生時代は柔道部に所属され、全日本で優勝するという猛者達の一人である。

先生は、学生時代から病理医を志望されていたが、当時卒業後すぐにはハードルが高く、血液内科に入局され、大学院修了後2年目に病理医としての道を歩まれた。

先生は今後島根県内で活躍する病理医を増やすために、次の3つ方針を掲げられている。“①器官病理学・病理部との連携強化②病理専門医を取りやすくする③病理学教室の魅力を上げる”である。また、病理学会が作成した病理医紹介ビデオを見せて頂き“ドクターズドクター”と言われる所以や魅力をご紹介頂いた。

先生がお考えになる“病理医に向いている人8ポイント”等、病理医育成に向けての構想をお示し頂き、学生達には未来が描けるお話であった。

## 第10回 Career Webinar

- 【テーマ】 外科医としての歩み
- 【日時】 令和5年2月27日(月) 12:15~12:45
- 【講師】 島根大学医学部外科学講座消化器・総合外科学  
教授 田島 義証 先生



【参加者】 30名

【概要】 先生は今春退官を迎えられる。外科医としての歩みを2部構成でお話し頂いた。

第1部は「医師への道のり」について、幼少期のエピソード、大学時代の課外活動、進路選択について話された。中でも課外活動は「昼間は機械体操部、夜間は浜口雀荘クラブの正会員になり麻雀に勤しんでいた。」とサラリと、やや強面のポーカーフェイスで話され、突っ込みどころを失ってしまった。

第2部は「医師としての資格」について、“学位”と“専門医”は極めて重要と話された。具体的には先生の実際を通してお話し頂いた。先生は、「リサーチとは、臨床で起こる疑問を研究で解決して、臨床に戻すものである。リサーチの面白みはやってみて初めて分かった。」と話され、学生達に朝永振一郎博士の「科学の花」を贈られた。

最後に、身に付けてほしい社会人としてのマナーを番外編で教示頂いた。

### ③ 社会医学系専門医の魅力がわかるケーススタディ

令和4年1月から、新型コロナウイルスの感染拡大のため中止をしていたが、令和4年11月より、「プロジェクトS」名称改め「ベースアップ」として再開した。

【日 時】 令和4年11月19日（土） 9：00～10：00

【概 要】 社会医学系専門医の魅力がわかるケーススタディ“プロジェクトS”がバージョンアップされ、“ベースアップ”として開催された。

目的は「若手保健専門職を中心とした自主的な勉強会を開催し、保健活動推進のために必要な資質の向上を目指すとともに、職員同士の交流を通して他職種に対する理解を深める。また、公衆衛生分野に関心のある学生・研修医に参加を呼びかけることにより、人材確保にもつなげる。」である。

初回は島根県医療政策課 医療専門員の藤井俊吾先生に「しまねの在宅医療を推進するために」のテーマでお話を頂き、終了後参加者同士で意見交換をしながら学びを深めた。

今後、アドバイザー等の“シニア組”も加わり毎月開催が予定されている。学生・研修医の参加がさらに増えるよう、引き続き呼び掛ける。

#### 島根県公衆衛生系専門職と学生・研修医の交流勉強会

日	時間	内 容	講 師	出席者 (学生)
11月19日	9：00   10：00	しまねの在宅医療を推進するために	島根県健康福祉部 医療政策課 医療専門員 藤井 俊吾 先生	14(3)
6月26日	9：00   10：00	しまねの健康寿命延伸のためのプロジェクト	島根県健康福祉部 健康推進課 課長 片岡 大輔 先生	7(2)
1月21日	9：00   10：00	しまねのがん対策について	島根県健康福祉部 健康推進課 主任保健師 宇都宮 拓也 先生	16(6)
2月18日	9：00   10：00	地域健康づくり活動をする楽しさ ～島根県健康寿命延伸プロジェクト モデル地区活動の取組から～	島根県県央保健所 所長 杉谷 亮 先生	13(6)
3月18日	9：00   10：00	島根県の地域・職域連携健康づくり ～現状とこれからに向けて考えていること～	島根県 健康推進課 健康増進グループ 保健師 規家 美咲 先生	11(3)

## ④ ビデオセミナー

学生に対して幅広く勉強する機会を増やすと共に、職員の医学知識のブラッシュアップも目的に、週1回昼休憩の12時から30分程の間、地域医療支援講座スタッフルームでビデオ上映をしている。

上映日	シリーズ名	タイトル	講師
4月12日	Dr. 林の笑劇的救急問答16 下巻 皮膚科救急編	第5回 壊死性筋膜炎1 / 見た目はいいのに痛みがりの「大げさに肘を痛がる45歳男性」	林 寛之 (福井大学医学部 附属病院総合診療部 教授)
4月19日		第6回 壊死性筋膜炎2 / 刺身を食べすぎて…? 「全身が黄色い下肢痛の60歳」	
4月26日		第7回 ダニ1 / 取れるものなら取ってみて! 「頭にダニがついた20歳男性」	
5月10日		第8回 ダニ2 / 不明熱と発疹でつつがある? 「原因不明の発熱が続く34歳男性」	
5月17日	総合内科 専門医試験 オールスター レクチャー 【感染症】 コロナの年に ねらわれるのは?	第1回 コロナウイルス	忽那 賢志 (国立国際医療研究センター 国際感染症センター 国際感染症対策室医長)
5月24日		第2回 新型コロナワクチン	
5月31日		第3回 マダニ媒介感染症	
6月7日		第4回 血液培養	
6月14日		第5回 発熱と発疹を伴う感染症	
6月21日		第6回 性感染症	
6月28日	総合内科 専門医試験 オールスター レクチャー 【呼吸器】 ガイドライン改訂 ラッシュを攻略	第1回 慢性閉塞性肺疾患(CORD)オーバーラップ症候群(ACO)	長尾 大志 (島根大学医学部附属病院 病院医学教育センター センター長/准教授)
7月5日		第2回 特発性間質性肺炎(IIPs)	
7月12日		第3回 咳嗽・喀痰	
7月19日		第4回 喘息	
7月26日		第5回 肺炎	
9月6日		第6回 肺癌	
9月13日	総合内科 専門医試験 オールスター レクチャー 【消化器】 消化管 内視鏡画像を 読めることがカギ	第1回 ピロリ菌感染症関連	宮垣 亜紀 (公立豊岡病院組合立 豊岡病院 消化器科 医長)
9月20日		第2回 消化管悪性腫瘍	
9月27日		第3回 消化管出血 腹部緊急疾患	
10月4日		第4回 消化管機能性疾患	
10月11日		第5回 感染症 炎症性腸疾患	
10月18日		第6回 遺伝性疾患 好酸球性胃腸症 内分泌	



上映日	シリーズ名	タイトル	講師
10月25日	総合内科	第1回 ウイルス性肝炎	山田 徹 (東京医科歯科大学 総合診療医学分野 講師)
11月1日	専門医試験	第2回 アルコール性肝疾患とNAFLD	
11月8日	オールスター レクチャー	第3回 自己免疫性肝炎と原発性胆汁性胆管炎	
11月15日	【消化器】	第4回 肝硬変	
11月22日	肝胆膵	第5回 急性胆嚢炎・胆管炎	
11月29日	増加傾向の 非アルコール性	第6回 急性膵炎	
12月6日	疾患に注意	第7回 慢性膵炎 IPMN	
12月13日	総合内科	第1回 糖尿病(1)	能登 洋 (聖路加国際病院 内分泌代謝科 部長)
12月20日	専門医試験	第2回 糖尿病(2)	
12月27日	オールスター レクチャー	第3回 下垂体疾患 副甲状腺疾患 骨粗鬆症	
1月10日	【内分泌・代謝】	第4回 甲状腺疾患	
1月17日	多彩なホルモン	第5回 代謝性疾患	
1月24日	疾患を総まとめ	第6回 副腎疾患	
1月31日	総合内科	第1回 食物アレルギー アナフィラキシー	岡田 正人 (聖路加国際病院 Immuno- Rheumatology Center 部長・ センター長)
2月7日	専門医試験	第2回 喘息 抗体医薬	
2月14日	オールスター レクチャー 【アレルギー】 舌下免疫療法と 抗体医薬が トレンド	第3回 アレルギー性鼻炎 重症薬疹・薬剤アレルギー	
2月21日	総合内科	第1回 急性・慢性白血病	渡邊 純一 (TMG あさか医療 センター血液内科)
2月28日	専門医試験	第2回 悪性リンパ腫	
3月7日	オールスター レクチャー	第3回 多発性骨髄腫 Oncology emergency	
3月14日	【血液】	第4回 骨髄増殖性腫瘍 造血幹細胞移植	
3月28日	血液がんの最新 治療を押さえる	第5回 貧血性疾患・造血不全	

## ⑤ 1年生 キャリアガイダンス（キャリア形成プログラム説明会）

【日 時】 令和4年5月16日(月) 17:00~18:00

【場 所】 国際交流ラウンジ

【参加者】 学生21名

【概 要】 セミナーは3部構成で、1部は佐野教授から“医師になるまでの入門編”として、カリキュラムとその特徴、臨床・専門研修について説明が行われた。また、「仲間との時間、恋愛、バイト、部活、ボランティア活動等も大事な経験」とメッセージを贈られた。

2部はしまね地域医療支援センターの児玉事務局長から“キャリア支援の流れとキャリア形成プログラム”について説明が行われた。学生には1・2部を通じて卒前後の支援の繋がりがイメージできたのではないと思われる。

3部は研修医の村上航太郎先生に“大学生生活の過ごし方、学生のうちにやっておくべきこと、できること”についてお話し頂いた。学生時代医療の価値観が大きく変容する切っ掛けとなったフレキシブル実習を紹介され「学生の未来の選択肢は無限大、色々な経験をしてほしい」とエールを贈られた。



## ⑥ 学生等個別面談

地域枠等及び奨学金受給の学生に対して、個別面談を実施している。学年担当教官がそれぞれ分担して、年1回の定期的な面談および必要に応じて不定期に面談を行っている。

生活状況、学習状況など把握するとともに、相談や必要に応じて指導を行っている。

令和4年度面談実施者のべ数：144名（3月31日時点）

令和4年度 地域枠等学生数

（ ）は奨学金なし

		学生						学生計
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
地域枠	一般	9	6	4	10	10(1)	11(3)	50(4)
	学士	—	1	2	2(1)	—	—	5(1)
緊急医師確保		8	9	8	3	5	5	38
県内定着		4	6	6	4	7	8	35
地域枠等合計		21	22	20	19(1)	22(1)	24(3)	128(5)
奨学金のみ		1	0	1	4	1	5	12
奨学金のみを含めた合計		22	22	21	23(1)	23(1)	29(3)	140(5)

## ⑦ キャリア形成卒前支援プラン策定協力

キャリア形成卒前支援プランとは、各大学が実施している医学部の教育カリキュラムを基盤としつつ、地域医療へ貢献する意思を有する学生に対し、地域医療や将来の職業選択に対する意識の涵養を図り、対象学生が学生の期間を通じて、地域医療に貢献するキャリアを描けるように支援をすることを目的としている。

島根県が策定するキャリア形成卒前支援プランに大学として協力を行った。



## ⑧ サークル活動支援

当講座ではサークル活動に対し場所の提供と必要に応じて相談に乗る等の支援を行っている。

### (1) サークル活動支援

#### ■ 「地域医療研究会」活動

浜田市国民健康保険弥栄診療所	令和4年8月15日から8月17日	6名
哲西町診療所	令和4年8月21日から8月24日	5名
小豆島中央病院	令和4年8月23日から8月26日	2名
日南町国民健康保険日南病院	令和4年8月29日から8月31日	3名
浜田市国民健康保険波佐診療所	令和4年11月4日から11月6日	6名
〃	令和4年12月25日から12月26日	1名
〃	令和5年2月16日	4名



## (2) 個人活動支援

### ■学生企画 医学科5年 吾郷 貴大 さん

【日時】 令和4年5月19日(木) 18～19時

【演題】 ACPのすゝめ

—その人らしい最期を支える医療のあり方—

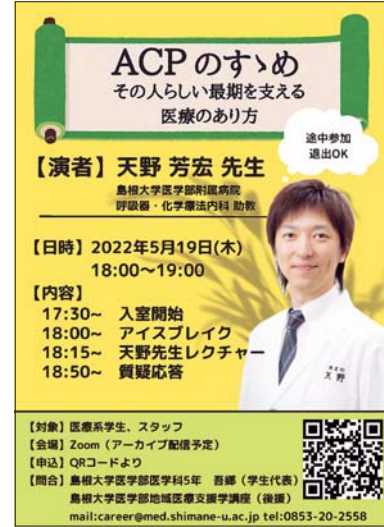
【演者】 島根大学医学部附属病院

呼吸器・化学療法内科 助教 天野 芳宏 先生

【対象】 医療系学生、スタッフ

天野先生より

呼吸器、老年医学と並行して緩和ケアに取り組んでいます。「もしもの時の備え」について一緒に考えてみませんか？



**ACPのすゝめ**  
その人らしい最期を支える  
医療のあり方

途中参加  
退出OK

【演者】 **天野 芳宏 先生**  
島根大学医学部附属病院  
呼吸器・化学療法内科 助教

【日時】 2022年5月19日(木)  
18:00～19:00

【内容】  
17:30～ 入室開始  
18:00～ アイスブレイク  
18:15～ 天野先生レクチャー  
18:50～ 質疑応答

【対象】 医療系学生、スタッフ  
【会場】 Zoom (アーカイブ配信予定)  
【申込】 QRコードより  
【問合せ】 島根大学医学部医学科5年 吾郷 (学生代表)  
島根大学医学部地域医療支援学講座 (後援)  
mail:career@med.shimane-u.ac.jp tel:0853-20-2558

### ■学生企画 医学科4年 福田 学 さん

【日時】 令和5年2月26日(日) 13:00～17:30

【場所】 島根大学医学部附属病院みらい棟4Fギャラクシー

【演題】 医療・交通両分野のナショナルミニマムを考える学際的シンポジウム

【プログラム】

- ・「ナショナルミニマム不在の医療と交通—異領域にまたがる共通の病理」  
島根大学医学部医学科 福田 学
- ・「離島における地域医療の提供とナショナル・ミニマム保障」  
島根大学法学部教授 関 耕平
- ・「揺れるナショナルミニマム—公共交通分野を中心に」  
東京大学大学院総合文化研究科博士課程 山本 卓登
- ・「過疎地交通の現状」  
株式会社バイタルリード 代表取締役 森山 昌幸
- ・「地域医療を支える島根県の取組と今後」  
島根県健康福祉部 医療統括監 谷口 栄作
- ・「救急空白—『生命権』保障における法・政策の空白領域として—」  
一般社団法人グローバル交流推進機構 理事 田中 巖
- ・「生存権保障の一手段としての公共交通—政策のあり方を実務現場から考える—」  
一般財団法人計量計画研究所 研究員 何 功

## 9 感染制御部との共催企画

このセミナーは、しまね地域医療支援センターが実施する、令和4年度研修・指導体制魅力化事業助成事業の一環として、卒後臨床研修センターおよび感染制御部との共催で開催したものである。講師には『レジデントのための感染症診療マニュアル』著者である青木 眞先生をお招きし、医学生・研修医・医療従事者を対象に講演頂いた。

【場 所】 みらい棟4階ギャラクシーホール  
対面とZoomのハイブリッド開催

【講 師】 青木 眞 先生

【第1回】 令和4年12月2日(金) 16:30~19:30

第1部 16:30~18:00

The Case Conference

ケースプレゼンター

初期研修医 村上 航太朗 先生

第2部 18:00~19:30

スペシャルレクチャー (前編)

【第2回】 令和5年3月30日(木) 18:00~19:30

スペシャルレクチャー (後編)



島根大学医学部地域医療支援学講座  
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

## ⑩ 医師のキャリア支援

しまね地域医療支援センターと連携しながら、医師のキャリア支援を行っている。当講座教授がしまね地域医療支援センターの理事、専任医師、企画委員長を務め、その運営にも積極的に関わっている。地域枠等卒業医師及び奨学金受給医師等の対象医師に対して、個人面談を行い、キャリアプランの作成支援を行うとともに、レジナビ、マッチング説明会などにも積極的に関わっている。

また、しまね地域医療支援センターから委託を受け、総合診療専門医育成ネットワーク事業、ワークライフバランス支援を行っている（これについては別項で掲載する）。

		研修医					医師計
		初期 1年	初期 2年	後期 1年	後期 2年	後期3年 以降	
地域枠	一般	10	5	6	11	50	82
	奨学金なし(再掲)					9	9
	学士		1	2	1	6	10
	奨学金なし(再掲)			1	1	2	4
緊急医師確保		8	5	3	7	16	39
県内定着		9	5	6	7	10	37
奨学金なし(再掲)			1				1
地域枠等合計		27	16	17	26	82	168
奨学金なし(再掲)		0	1	1	1	11	14
奨学金のみ		9	7	11	8	38	73
奨学金のみを含めた合計		36	23	28	34	120	241
奨学金なし(再掲)		0	1	1	1	11	14

## ⑪ 高大連携活動

高校生が島根の地域医療に興味を持つような取り組みに力を入れており、令和5年3月4日(土)に実施された「第5回しまね総合診療の集い」には5人の高校生が参加し、対面で交流を行った。

## 12 島大病院ニュース

島根大学医学部附属病院では、病院の取り組みや最新情報の発信を目的として、県内の地域医療機関へ月1回「病院ニュース」を発行している。当講座からも、学生や医師の支援に向けた取り組みについて投稿している。令和4年度投稿分を掲載する。

2022年8月

**医療ニーズから誕生した  
新しい高性能「医療用フェイスシールド」**

地域未来協創本部 地域医学共同研究部門 教授 中村 守彦

当院（感染制御部）と出雲市の株式会社河内との共同研究により製品開発した「医療用フェイスシールド」が発表されました。当院において、新型コロナウイルス感染症の検疫・治療にあたる多くの医療従事者（医師・看護師など）が常に使用して、検疫・安全を確保しています。

多層部のフェイスシールドが完成されていますが、特に医療用キヤップを兼ねた顔面に密着して固定できる素材は存在しません。そこで、顔面への密着に糸紐を使用し、その糸紐に留め具を備えて首輪を後部に仕立てた新しい「医療用フェイスシールド」を産学共同で開発しました。全て可塑性の素材で構成されており、使用後は汚染したフェイス面に触れることなく安全に棄棄できる。検疫と医療従事者にやさしいフェイスシールドです。長時間装着しても、ゴムバンドのように顔面を締めつけて痛くなることなく、フェイス面は飛沫防止に必要十分な医療デザインを創出して安全を確保し、フェイス素材（PET）は0.2mmと極薄で視認性は抜群です。

なお、本製品については、共同で特許登録を特許しています。写真は当院のシミュレーション入りですが、マークのない製品も販売します。

地域未来協創本部・地域医学共同研究部門は、医療現場のニーズに基づき医学部・附属病院と連携して地域医療に資する高度な新しい「モノづくり」を進めています。

最新記事 地域未来協創本部 地域医学共同研究部門 TEL: 0853-20-2912

2022年10月

**Webinarを開催しています!!**

地域医療支援学講座 助教 堀田 優希江

地域医療支援学講座では島根県の医師不足解消、地域医療の課題解決に向けた取り組みを行っています。その中でも医学生が地域医療に興味を持ち、貢献して貰えるようにキャリアの一考として「Career Webinar」と、地域医療への興味・理解を深めるために「地域医療 Webinar」を毎月行っています。

「Career Webinar」の講師は、大学病院の若手医師からベテラン医師まで、基礎医学系講座から臨床医学系講座、特別診療部門など様々な分野からお招きしています。これまでの経歴や各診療科の特徴について興味深いお話をさせていただいております。「Career Webinar」ではご講演いただける講師の先生方を随時募集しております。ご推薦でも構いません。是非ともよろしくお願ひします。

「地域医療 Webinar」では島根県内内外問わずご活躍している医師、看護師、検査技師などの地域医療を支えている方々から、地域医療から医療の分野まで幅広い講師からお話しいただいております。夕方の時間開催しており、学生だけでなく医療関係者の参加もあり、学びの多い講演となっております。

ホームページやSNS (Facebook, Instagram, LINE) を通じて情報発信しておりますのでフォローをよろしくお願ひします。

興味のある方は、career@med.shimane-u.ac.jpまでぜひご連絡ください。

島根大学医学部 地域医療支援学講座(CMG)で情報発信しています

最新記事 地域医療支援学講座 助教 堀田 優希江

2023年2月

**男女共同参画講義を実施しました**

地域医療支援学講座 助教 堀田 優希江

臨床実習直前の医学科4年生を対象にキャリア教育として、男女共同参画講義を島根県医師会との共催にて行いました。午前のはじめは島根大学医学教育センター長の藤沼淳子先生により、「ライフイベントとキャリア」について医師夫婦の実例にわかりやすい事例を交えてグループワークを行いました（写真1）。

午後は、キャリアモデルとして3名（呼吸器・化学療法内科 濱口慶先生、産婦科 児木寿希先生、重症集中センター 安部哲史先生）の医師にお話いただきました（写真2）。それぞれこれまでのキャリアの歩みと、学生へのエールを送っていただきました。

特別講演としてWHO危機管理シニアアドバイザーの渡邊雅邦先生にお話いただきました。WHOで感染症の分野で活躍されており、ジュネーブからのライブ配信でした（写真3）。COVID-19の基礎知識や世界での最新の現状などについてわかりやすく教えていただき、大変貴重なお話を聞くことができました。

これから臨床実習が開始され、将来医師になった時のWORK/LIFE キャリアのイメージを振り返らせることができる1日となりました。ご協力いただいた先生方、大変ありがとうございました。今後も学生たちのキャリアを応援したいと考えております。

最新記事 地域医療支援学講座 助教 堀田 優希江 TEL: 0853-20-2558

こちらの投稿をご覧ください、下記のQRコードより病院HPへアクセスください。最新の記事が更新されますと、古い記事はバックナンバーへ移行されます。

病院ニュース掲載ページ



島根大学医学部地域医療支援学講座  
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

### 3 地域医療交流サロンの取り組み

#### ① 地域医療交流サロン・みらいラウンジ

平成22年に学内に「地域医療交流サロン」を設置した。ここは現在みらい棟2Fの当講座スタッフルームの向かいにあり、地域枠推薦入学等の学生と行政・医療機関との交流、学生と当講座教員との面談、地域医療関係のサークル活動等に利用されている。学生が地域の行政担当者・医療機関関係者と顔の見える関係を作ったり、地域医療のモチベーションを維持させたりするのに大いに役立っていると言える。さらに「地域医療交流サロン」には各学会誌や島根大学関連情報誌の掲示に加え地域医療、公衆衛生、統計学等に関する1224冊の蔵書があり利用者も多い。また、何も予定がない時には学生の学習の場所としても頻繁に活用されている。

みらい棟1Fに設置された「みらいラウンジ」には県内の行政・医療機関の広報誌を掲示し、学生への情報提供の場としても一役を担っている。



#### ② 令和4年度地域枠等特別選抜枠新入生説明会・意見交換会（ハイブリッド開催）

【日時】 令和4年4月4日(月) 17:30~19:00

【場所】 島根大学附属病院 食堂「ラパン」

【参加者】 地域枠・緊急医師確保対策枠・県内定着枠、学土地域枠 新入生23名

(対面：15名 オンライン：8名)

3年振りに地域枠等特別選抜枠の新入生説明会・意見交換会を開催した。開催にあたっては感染予防の観点から、学生には島根県内在住2週間の健康観察期間を出席要件とした。

学内からは鬼形医学部長、椎名病院長、島根県からは安食健康福祉部長に出席を賜り、ご挨拶を頂いた。医学部長は「自分達の大学を好きになってほしい。また、自分の立ち位置がわかる人間になってほしい。私達の言動を評価するのは他人で、自分ではない。社会から見つめられていることを知っておいてほしい」とメッセージを贈られた。病院長からは、「医療はチームで行う。仲間で行う医療は強いものがある。同期の絆を構築してほしい。」とメッセージが贈ら



れた。健康福祉部長は、島根県の寄附講座で在学中の支援を行う地域医療支援学講座、主に卒業後の支援を行うしまね地域医療支援センターをご紹介頂いた。更に今後の島根の医療を支える学生達には島根県民の大きな期待が寄せられていることを伝えられた。

続いて新入生の自己紹介に移り、プチ自慢できる特技と入学しての抱負を述べてもらった。緊張した表情・空気感の中、学生のプチ自慢特技には、会場から感嘆の声や笑いが起こる場面もあり、徐々に和やかな空気に包まれていった。

7名の地域枠等特別選抜枠の先輩学生からは、個々の経験から後輩を思いやる大学生活へのアドバイスとエールが贈られた。

入学式当日の開催でハイブリッド形式にはなったが、地域枠等特別選抜枠の新入生には、同期の仲間・先輩・これから関わる支援者側の顔を知ってもらおう場となり、絆を築く第一歩となった。



島根大学医学部地域医療支援学講座  
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

## ③ 地域枠等特別選抜枠新入生島根県知事表敬訪問

【目的】 将来、島根県の地域医療に貢献することを期待されている島根大学医学部地域枠等の学生が知事（副知事）を表敬し、激励を受けることで、学業及び地域勤務に対する意識の醸成及び向上を図る。

【日時】 令和4年8月8日(月) 13:00~13:20

【場所】 サンラポーむらくも「八雲の間」

【参加者】 島根大学学生7名 鳥取大学学生2名 教員3名

島根大学医学部特別選抜枠入学生（地域枠・緊急医師確保対策枠・県内定着枠、奨学金貸与者）が、鳥取大学医学部医学科「島根県枠」の学生と共に、島根県丸山達也知事を表敬訪問した。

当講座の教授である佐野が表敬訪問の趣旨を含め挨拶し、その後学生一人一人が自己紹介と抱負を述べた。

丸山知事からは、コロナ禍の厳しい現状で働く医療職を労われ、志高く将来島根の地域医療に貢献する学生達に、大きな期待を寄せていると激励がおくられた。

学生からは、「知事のお話を聞くことで、島根県の医療に貢献しようという決意を再度する事ができた」「知事から頂いた激励の言葉に、気持ちを入れ直すことができた」「知事の激励は光栄だった。鳥取大学の仲間とまた会えて嬉しかった！」「知事の期待に応えられるよう頑張っていきたい」と感想が寄せられた。



## ④ 松江市立病院・松江生協病院・松江赤十字病院見学

地域枠等特別選抜枠の新入生が島根県副知事を表敬訪問するのに併せ、午前松江市内実習施設の3病院を見学させて頂いた。

【日 時】 令和4年8月8日(月) 9:00~14:45

【場 所】 松江市立病院、松江生協病院、松江赤十字病院

【参加者】 島根大学学生7名、しまね地域医療支援センター職員1名、教員3名

松江市立病院では、まず歓迎の動画から始まった。続いて初期研修医の田邊先生から「医学生のうち」というテーマで、学習から心の健康迄多くのアドバイスが贈られた。その後ヘリポート等ご案内頂いた。

松江生協病院では、最初に高濱院長に病院の特徴・役割をお話し頂いた。続いて指導医の鈴木先生から病院での実務についてお話し頂き、“低学年から現場に出て、自分の医師像を作っていたら良い”とメッセージが贈られた。

松江赤十字病院では、救急総合診療科の田邊先生に、救急搬送受入れから入院に至るルートを実際にご案内頂き、救命救急センターについて説明を頂いた。その後、外来・放射線科部門、ヘリポート等をご案内頂いた。



## ⑤ 学生と行政・医療機関との交流

地域枠推薦入学等の学生の出身地域へのモチベーションを持続させるために、例年、県内の行政・医療機関が企画・立案した交流会が実施され、当講座教員も参加している。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、1件のみ実施した

### 【行政との交流会】

#### ■雲南市・奥出雲町地域医療交流会

【日 時】 令和4年11月22日(火) 18:30

【場 所】 ツインリーブスホテル出雲

【参加者】 29名(学生8名)

## ⑥ 学生間、学生と教員等との交流

### ■地域枠等入学生全学年会（ハイブリッド開催）

【日 時】 令和4年11月25日(金) 18:30~20:00

【場 所】 みらい棟4階 ギャラクシー

【参加者】 対面19名、オンライン11名

6年生が主催する全学年会が3年振りにハイブリッド開催された。今回は、広く「地域枠」について知ってもらいたいという主催者側の主旨から、枠以外の学生参加も呼び掛けられた。

2部構成で、1部はしまね地域医療支援センターより「しまね屋根瓦塾」等が紹介され、続いて主催者から「地域枠制度・奨学金」等について説明が行われた。2部は対面とオンライン参加者に分かれ、自己紹介後自由に歓談のスタイルがとられた。会場では、次々と3~4人の輪ができ自然と会話が弾んだ。

主催者の最後の挨拶では、6年間の学びの中に自分の核となるものをしっかり築いた、力強いメッセージが後輩たちに贈られた。主催者が“つなぐ”全学年会によって、新たな“つながり”が後輩たちに生まれ、来年へとバトンが渡された。

なお、「学年会」についてはコロナ禍のため中止とした。



## ⑦ 図書・DVDの貸出事業

「地域医療交流サロン」には地域医療、公衆衛生学、疫学、統計学、臨床関係等に関する約1214冊の蔵書、雑誌、DVDがあり、随時学生に貸し出しを行っている。

令和4年度 貸し出し総数 書籍：2冊 DVD：0巻

【新刊書籍・DVD】



## 4 地域医療支援等

### ① 島根大学市民公開講座 (オンデマンドWeb開催)

【配信期間】 令和4年6月6日～9月30日

【テーマ】 第1回 変わっていくコロナウイルスと感染対策

【講師】 地域医療支援学講座 教授 佐野 千晶



### ② 第13回中四国地域医療フォーラム

中四国の地域医療関連寄付講座等、県、地域医療支援センター、各大学からの学生が一堂に会し、地域卒学生等の学部教育、キャリア支援を考えるフォーラムを各県持ちまわりで行っている。

【テーマ】 多様なキャリアを支援する制度の在り方と医師確保の両立について

【日時】 令和5年2月4日(土) 9:30～15:30

【開催方法】 Web開催

【主催】 高知大学医学部家庭医療学講座

高知大学医学部・病院事務部総務企画課地域医療支援室

高知県健康政策部医療政策課

【参加者】 中四国各県の地域医療に関わる大学関係者

県行政担当者

地域医療支援センター職員

地域卒卒業医師

地域卒学生 ほか

【概要】 今年度もコロナ感染拡大の為、Webでの開催となった。午前のプレ集会は「地域医療関係講座の現状と課題」というテーマで当講座を含む9大学からの報告が行われ意見交換を行った。

午後の本会は「多様なキャリアを支援する制度の在り方と医師確保の両立について」というテーマで当講座を含む9大学から報告が行われ意見交換を行った。続いて地域卒出身医師2名から近況報告がなされた。

### ③ 地域医療支援広報

医療従事者向けサイト [m3.com] より、地域医療支援学講座の取り組みについて取材を受けた。一部を抜粋する。

#### 【島根】新カリは5年生全員が地域で4週間実習、1人の患者にじっくり向き合う-佐野千晶・島根大学医学部地域医療支援学講座教授に聞く ◆Vol.2

将来の医師過剰を避けるため、国が医学部の臨時定員枠を段階的に削減する方針を示す中、教育を担う大学は「数より質」へのパラダイムシフトを余儀なくされている。医師のキャリア支援に注力してきた島根大学医学部地域医療支援学講座では、医学生による海外雑誌への論文投稿や、地域に勤務しながらの学位取得などを積極的にサポート。地方の医療機関や自治体とタッグを組みながら、医師の資質向上に力を入れる同講座教授の佐野千晶氏に聞いた。(2022年2月22日インタビュー、計2回連載の2回目)



——国際基準に基づく医学教育分野別評価認証の受審が迫る中、2021年度から医学部のカリキュラムが変わりました。

5、6年生で実施していた診療参加型臨床実習（クリクラ）は従来、大学周辺の診療所などで実施する実習と、地域に出向いて行う実習の2種類をそれぞれ2週間ずつ行っていました。それを水平統合し、2021年度からは、5年生全員が4週間地域に滞在し、総合診療専門医プログラム責任者の下で実習を行うことにしました。学生を4週間、「国内短期留学」させ、大学内では学びにくいことをじっくり学んでもらうのが目的です。

島根大学附属病院総合診療医センターの全面協力で、各施設が独自のプログラムを作成。1クール11人が17の医療機関に分かれ、実質的に総合診療を学べる場所で実習してもらっています。1人の患者にじっくり向き合える上、地域包括ケアにも関わることができると考えています。新旧カリキュラムが混在する2021年度は、2月21日に最初の学生が4週間の実習に入りました。

「地域枠等」では、地域医療に貢献する志を入試で選抜します。しかし、そのような志が入学後に出てくる人もいりません。教育熱心な総合医プログラム責任者の下で4週間実習すれば、地域での医療に関心を持つ学生が増えるのではないかと期待しています。

——2021年度、多くの医学生が英語で論文を執筆し、海外雑誌に掲載されました。

海外では、地域のシーズを大学に集め、学生が論文を執筆するケースは多くあります。試験管を振るような実験と違い、社会科学や行動科学などといった非実験系の研究は本来、地域と一体となって行った方が進みやすいです。しかし日本では地域の医師が忙しく、タスクシフトが取れていないことなどが要因でなかなか進んできませんでした。今回は、医学部の非常に忙しいカリキュラムの中、休日や自習時間を使うなどして学生自身が努力をしたことに加え、臨床実習先の指導医が学生を細やかにフォローしてくれたので、論文が完成したのだと思います。

論文はゼロベースから自ら執筆するよりも、他人の文章を直す方が大変です。通常業務の傍ら、学生を指導してくれた雲南市立病院の太田龍一医師には大変お世話になりました。キャリアを重ねても内省的姿勢を保持している太田医師は、学生からも知識を得ようとする意識が高く、その姿勢が学生の意欲をより高めていました。医学教育理論を専門的に学んできた医師だからこそ、学生の力を引き出す力も大きかったようです。学生への指導は本人の学びにもなっているようです。太田医師は以前から知っていますが、サイエンスライティングが非常にハイレベルになってきており、当人の成長ぶりに驚かされています。

論文は、著者が亡くなってからも形として残るものであり、研究者にとってはわが子同然です。地域で見つけた課題に対し、仮説を立てて科学的に証明し、さらに査読を受け、レビューをもらって直し、社会発信していくという過程を早くから学べることは、学生にとっても大きいと思います。医師の仕事は本来、患者からの学びを自らに落とし込み、次の臨床に生かすという作業の繰り返し。英語で発表することで、若いうちから全世界につながりを持つこともできます。

#### ④ 島根県健康福祉部医師確保対策室・しまね地域医療支援センター・地域医療支援学講座合同勉強会

島根県の地域医療を担う医師の育成・定着を図るためには、島根県健康福祉部医師確保対策室としまね地域医療支援センターの3者で月に1回合同勉強会を行った。

【場 所】 みらい棟1階 みらいラウンジ

【内 容】 年間スケジュール、島根県内における専門研修に関するアンケート、入学制度学生面談、臨床研修医マッチング登録及び結果、中四国地域医療フォーラム、キャリア形成プログラム運用指針、島根県医学生地域医療奨学金 等

##### 3者会議実施日

回数	実施日	回数	実施日
第1回	4月19日(火)	第6回	12月20日(火)
第2回	5月17日(火)	第7回	1月17日(火)
第3回	6月20日(月)	第8回	2月21日(火)
第4回	8月22日(月)	第9回	3月28日(火)
第5回	11月22日(火)	—	—

**太田龍一先生**

**3つ目の学位取得!**

*-special column-*

本講座の客員研究員である雲南市立病院 太田龍一先生が、3つ目となる学位を取得されました!

マーストリヒト大学 医学教育学修士 (Master of Health Professions Education: MHPE)

筑波大学 博士(医学) (Doctor of Philosophy: PhD)

に続いて、

エジンバラ大学 公衆衛生学修士 (Master of Public Health: MPH) のdegreeです

誠にありがとうございます! C.S.



## 5 ホームページ・広報誌等による情報発信

※登録者数・更新数は、令和5年3月10日時点

### ① ホームページ

今年度はセミナー等のお知らせを46回更新した。  
HPでは、セミナーのお知らせだけでなく、  
大学や行政をはじめとする各種機関からの情報提供や、  
実習に関する資料等も掲載している。



### ② Facebook

今年度は93回更新し、今年度の登録者数は1240名となった。  
医師や研修医など、医療従事者だけでなく、  
一般の方からも広く登録いただいている。  
ご支援のコメントを頂戴する機会も多く、  
講座の活動に関心を寄せられていることが伺える。



### ③ Instagram

今年度は53回更新し、今年度の登録者数は196名となった。  
また、今年度は動画コンテンツの作成にも取り組み、  
注目されるコンテンツ作りに励んでいる。  
今後も、学生向けの情報発信を積極的に行っていきたい。



### ④ 公式LINE

新入生だけでなく、在学生にも登録を呼びかけ、  
今年度の登録者数は233名となった。  
セミナー後のアンケートでも、セミナーを知ったきっかけに  
LINE配信を選択する学生が年々増える傾向が伺えた。  
LINEチャットでの情報発信は、メールよりも開封率が高く、  
学生と繋がる、重要なツールである。





⑤ 地域医療支援学レター（年4回発行）

今年度もニュースレター「We love ちいき」を年4回発行し、紙ベースでのPR活動も行っている。鳥根大学地域枠等推薦入学及び奨学金受給の全学生・県内保健所・医療機関・全国の大学の地域医療関連講座等に配布している。



鳥根大学医学部地域医療支援学講座  
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

⑥ 地域医療支援学レター掲載「リレートーク」

地域医療支援学レター「We Love ちいき」に、リレートークというコーナーを設けて、県内の医療従事者に、これから医師となる学生に向けて、地域医療の魅力や課題・病院のPRを含めてメッセージを頂いている。第39回から第42回を掲載する。

Vol.39 リレートーク

第39回 リレートーク

TITLE | R6年グランドオープン  
石見地方山間部で頑張る公立邑智病院



公立邑智病院  
院長  
山口 清次 先生

公立邑智病院は中国山地のまん中にある邑智郡3町による郡立の病院です。都市部の大規模病院まで40～80km離れているため、この地域での医療は原則として邑智病院で完結しなければなりません。近隣の診療所や都市部の医療機関との連携、さらに必要に応じて自治体の政策立案にも参画します。

へき地の病院にいて感じることは、医師等の人材確保が想像以上に大変なことです。現在常勤医は10名ですが、一人医師が急に退職すると穴が開いてしまいます。島根県や大学医局等からも対応するゆとりがあるとは限りません。やむなく全国公募や口コミで医師をスカウトすることもあります。そのような時、先方から厳しい就労条件を示されて対応に苦労することもあります。

自治体や病院スタッフなどの努力によって人材確保、健全経営をギリギリ維持しているのが現状

です。一方地域の病院では患者と病院の距離感が近く、地域医療のやりがいを感じることが出来ます。へき地の病院には短所もありますが、これらを意識して克服しながら、地域医療を経験することは貴重な機会になります。島根県や大学病院が連携して、島根県内の医療の質に地域格差が出ないような体制を願っています。



公立邑智病院  
〒696-0193 島根県邑智郡邑南町中野3848-2  
TEL 0855-95-2111 FAX 0855-95-2313

Vol.40 リレートーク

第40回 リレートーク

TITLE | 知床らうす国民健康保険診療所との  
地域連携



松江市立病院  
病院長  
入江 隆 先生

松江市立病院は病床数470床、28診療科を有する松江圏域の中核的かつ高度急性期・急性期病院として機能しています。がんセンターと緩和病棟を備え、がん患者に関するトータルケアを提供できるのが本院の特徴です。

地域医療を実践していく上では、医療機関同士が相互に円滑な連携を図り、それぞれの有する機能を有効活用することが重要です。連携を強化していくためには顔の見える関係作りが大切です。コロナ禍にあって対面での連携が困難となってきましたが、代わりにWebを利用した環境が整ってきて、コロナ収束後もWebによる研修やカンファレンスが主体となってくるかもしれません。

さて、当院はへき地医療を知る機会を得るために「知床らうす国民健康保険診療所」にも連携しています。2014年からこれまでに研修医5名と看護師7名を派遣しました。らうす診療所は最も近い病院でも60kmの遠方にあることから、救急搬送時には救急車に同乗し、病院に到着するまでの間、的

確な判断と指示が要求されるなど、へき地医療における救急外来の厳しさを経験することが出来ます。また、地域住民を対象とした保健指導、さらに老人クラブなどの地域行事へ参加することにより健康増進への役割を担い、本院では得られない貴重な経験をすることも出来ます。

研修医の皆さん、羅臼に行ってみませんか？



松江市立病院  
〒690-8509 島根県松江市乃白町32番地1  
TEL 0852-60-8000(代表) FAX 0852-60-8005

島根大学医学部地域医療支援学講座  
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

Vol.41 リレートーク

第41回 リレートーク

TITLE | 総合診療のすべてが詰まった  
隠岐島前病院



隠岐広域連合立 隠岐島前病院  
院長  
黒谷 一志 先生

ここ数年なにかと話題の総合診療医、皆さんどんなイメージですか？町のお医者さん、病院の振り分け外来担当、ニッチな領域の専門家……。皆さんの経験で色々なイメージがあると思います。ここ島前病院の医師は、「The 総合診療医」を自負しています。日本海に浮かぶ隠岐諸島の西ノ島にある44床の小さな病院ですが、常勤の7人は全員総合診療医で、0歳の子供も100歳のお年寄りも、内科的な訴えも外科的な訴えも、眼科・耳鼻科・整形外科・精神科的な訴えも、全て診察します。急性期の入院管理から看取りを含めた在宅診療も対応します。上部下部の内視鏡検査や、心臓・腹部・頸部・運動器など全身の超音波検査、fascia hydroreleaseやブロック注射、小外科手術なども行います。もちろん地域に出るの住民教育や、役場・社会福祉協議会などとの連携もしっかり行っています。離島で

ある事を逆にメリットとして、患者さんを断ることなく様々な訴えや疾患に対応できる能力を培うことの出来る環境にあり、多くの若手医師が勉強に来てくれる環境にもなっています。皆さんも、「The 総合診療医」の姿を見に来てみませんか？



隠岐広域連合立 隠岐島前病院  
〒684-0303 島根県隠岐郡西ノ島町大字美田2071-1  
TEL 08514-7-8211 FAX 08514-7-8702

Vol.42 リレートーク

第42回 リレートーク

TITLE | ひとりひとりの住民に寄り添いつつ、  
住民全体を支える「つながり」づくりをめざして



島根県浜田保健所  
所長  
村下 伯 先生

3年にわたる新型コロナウイルス感染症への対応は、公衆衛生活動の原点を問い直されるものとなりました。

毎日、すべての患者の状況調査票と健康観察票に向き合う中で、生活状況が厳しい人から感染している現実、認知機能が低下した独居高齢感染者の自宅療養の対応、感染により不安が増幅している方への心のケア……。ひとりひとりをどう支えるかが問われました。

もちろん、保健所職員だけでは対応できません。病院・診療所の医師・看護師、訪問看護師には大変お世話になりました。そして誰に頼ったらいかと、市町村職員、地域包括支援センター、相談支援事業所、福祉サービス事業所、民生児童委員などなど、様々な方々に相談し、お願いし、つないで、一緒に対応しました。何度も地域の皆さんに助けられました。

そして、公衆衛生の定義のとおり、すべての住民を対象に、「組織的努力」による健康増進をめざ

し、科学と技術で実践することの必要性を痛感したところです。

困りごとを受けとめ、助けを求め、知恵を絞って、一緒に取り組む。医療関係者の皆様には今後とも協力と連携をお願いしますとともに、公衆衛生の分野に興味を持っている方、是非来て下さい。お待ちしております。



島根県浜田保健所  
〒697-0041 島根県浜田市片殿町254  
TEL 0855-29-5537(代表)  
FAX 0855-22-7009(総務保健部)

## 6 島根総合診療専門医育成ネットワークの取り組み

### ① 各医療機関間のネットワークづくり

#### (1) 総合診療専門医育成ネットワーク世話人会及び意見交換会等の開催

- ・世話人会議 令和4年8月7日(日)
- ・世話人会議 (メール会議) 10回
  - 7月 松江赤十字病院、益田赤十字病院の新規参加について
  - 8月～12月 総合診療専門医プログラム広報のあり方について
  - 1月～3月 次年度の取り組みについて

### ② 総合診療医育成のためのプログラム作成・指導體制の整備支援

#### (1) 総合診療専門医育成プログラムの整備状況

令和4年度時点で下記の育成プログラムが整備され、28名の専攻医が研修中である。

##### ■家庭医療専門医プログラム (Ver2.0) ……10プログラム

- ・島根大学病院総合医・家庭医養成プログラム (ver.2.0)
- ・島根県立中央病院地域医療・家庭医療プログラム (ver.2.0)
- ・出雲市民病院・出雲家庭医療学センター後期研修プログラム (ver.2.0)
- ・雲南市立病院総合医・家庭医教育プログラム (ver.2.0)
- ・大田市立病院総合診療医・家庭医育成プログラム (ver.2.0)
- ・家庭医療・地域包括ケア 仁寿・川本あいあいプログラム (ver.2.0)
- ・浜田市地域包括ケア家庭医療専門医コース (ver.2.0)
- ・津和野共存病院総合診療医・家庭医育成プログラム (ver.2.0)
- ・県境を含む中山間地域で育む総合医研修プログラム (ver.2.0)
- ・島根県済生会江津総合病院総合診療専門プログラム (ver.2.0)

##### ■総合診療専門研修プログラム ……12プログラム

- ・松江生協病院総合診療専門医研修プログラム
- ・島根大学病院総合診療専門医コース研修プログラム
- ・島根県立中央病院総合診療専門研修プログラム
- ・出雲市民病院・出雲家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム
- ・雲南市立病院総合診療専門研修プログラム
- ・総合診療専門研修仁寿・川本あいあいプログラム
- ・島根県済生会江津総合病院総合診療専門プログラム
- ・浜田市地域包括ケア総合診療専門医コース

- ・津和野共存病院総合診療専門研修プログラム
- ・出雲徳洲会病院総診プログラム
- ・松江赤十字病院総合診療専門研修プログラム
- ・益田赤十字病院総合診療専門研修プログラム

## (2) 総合診療医ブラッシュアップセミナーの実施

(第2回しまね総合診療の集い(Web開催)として実施)

【日時】 令和4年8月7日(日) 10:00~12:10

【参加者】 111名

【講師】 第1部：大阪大学大学院医学系研究科

感染制御学 教授 忽那 賢志 先生

第2部：島根大学医学部附属病院

感染制御部副部長 ICTリーダー

准教授 羽田野 義郎 先生

第1部は、大阪大学感染制御学の忽那賢志先生に「COVID-19アップデート」のテーマで、COVID-19の基本的な情報、現在主流となっているBA.5の状況、ワクチンおよび治療薬の有効性について、国内・海外の文献やデータをもとにお話し頂いた。COVID-19の収束が不透明な中で、先進的な知見を持たれる先生の講義内容には、講演終了後にも多くの質問が寄せられ、活発な議論が交わされた。

第2部では、「抗菌薬適正使用とその周辺」のテーマで、今年当大学の感染制御部に着任された羽田野義郎先生に、薬剤耐性、抗菌薬適正使用を判断するためのAWaRe分類、感染症治療期間等についてお話し頂いた。全国的に感染症専門医が不足している中で、島根県においては、解決策の一つとして、総合診療専門医が感染症の領域を担ってほしいと話され、貴重な示唆を頂いた。



## (3) 「総合診療専門医プログラム説明会」の実施

(第3回しまね総合診療の集いとして実施)

【日時】 令和4年9月3日(土) 13:30~17:15

【場所】 パルメイト出雲4階 パルメイトホール (Zoomと併用のハイブリッド)

【参加者】 51名

【講師】 第1部 飯南病院総合診療科 馬淵 寛也 先生

隠岐病院総合診療科 森江 祥平 先生

第2部 島根県立中央病院総合診療科 文田 昌平 先生

飯南病院総合診療科 馬淵 沙弥佳 先生

奥出雲病院総合診療科 重栖 模典 先生

【概要】 趣向を凝らし医学生のピアノ演奏から始まった。開催形式も2部構成で内容を刷新し、過去最多の参加者となった。

第1部は8病院のプログラムを紹介する動画を流した後に、専攻医の馬淵先生・森江先生に「総合診療医って実際どうなの？－専攻医のリアルな毎日－」をテーマにお話し頂いた。診療と普段の生活の様子を交えたお話しには、初期研修医や医学生も総合診療専門医のイメージを掴めたのではないかと感じた。

第2部は3病院のプログラムを紹介し、「総合診療と内科医迷います・・・私たちもそうでした」というテーマで、文田先生・馬淵先生・重栖先生に其々のご経験からお話し頂いた。その後ファシリテーターを中心として有意義なグループディスカッションが行われ、初期研修医や医学生が普段感じていた疑問も解決したのではないかと考える。



## ③ 総合診療専門医等の研修と養成

### (1) しまね総合診療の集い

#### ■第1回

【テーマ】 島根県総合診療専攻医合同オリエンテーション

【日時】 令和4年4月16日(土) 13:20~18:30

【場所】 パルメイト出雲4階 パルメイトホール (Zoomと併用のハイブリッド)

【参加者】 58名 (対面31名 Web27名)

【講師】 しまね総合診療センター センター長 白石 吉彦 先生  
出雲市民病院 副院長 高橋 賢史 先生  
内科部長 上村 祐介 先生

【概要】 記念講演として、白石吉彦先生に「これから総合診療を始める君たちへ」と題してお話し頂いた。学生時代、海外留学、隠岐島前病院での医療について紹介され、たくさんのメッセージが新専攻医に伝えられた。続いて、高橋賢史先生、上村祐介先生より「専攻

「医直伝・研修サバイバル術」のレクチャーが行われ、ポートフォリオ発表とクリニカルジャズの実践をグループに分かれて行った。新専攻医はもちろん、初期研修医や医学生にも総合診療の面白さを感じてもらえる内容であった。

閉会式では、しまね総合診療センターのチーフレジデント5名が選出され、白石吉彦先生より任命状とネームプレートが手渡された。島根の総合診療医育成に対する先進的な取り組みは、熱意にあふれている。新専攻医の先生方が、本会をきっかけとして大きく飛躍されることを期待する。



■第2回

「総合診療医ブラッシュアップセミナー（Web開催）」を実施した。

■第3回

「総合診療専門医プログラム説明会」を実施した。

■第4回

【テーマ】 君たちの5年後を考える・専攻医の“その次”は、家庭医!? 病院総合医!? それとも!?

【日時】 令和4年12月3日(土) 12:30~17:00

【場所】 ツインリーブスホテル出雲  
2階ファンクションルーム  
(Zoomと併用のハイブリッド)

【参加者】 対面37名 Web11名 計48名

【講師】 島根県立中央病院  
地域総合医育成科部長 小田川 誠治 先生  
総合診療部長 増野 純二 先生  
総合診療科部長 今田 敏弘 先生

【概要】 オープニング講演では、島根県立中央病院の小田川先生が「専門医制度」についてお話しされ、初



期研修医や医学生は制度のイメージを掴むことができたのではないかと考える。

第1部は医学生3名が、島根県内の実習で感じたことや経験した症例を通じて、学生の視点から総合診療の必要性についてプレゼンテーションを行った。

第2部は専攻医教育企画で、2つの症例についてグループワークが行われた。最初に関節リウマチと肺がん患者の症例が提示され、関節リウマチの問診・診察・診断の方法や、肺がん患者の呼吸困難緩和方法、在宅でのPCAポンプの必要性についてディスカッションが行われた。その後、島根県立中央病院の増野先生と今田先生から、症候学や詳細な治療方法、出雲PCAシステムの実績について講義頂き、初期研修医や医学生も実践的な学びに満足な様子が窺えた。

## ■第5回

【日 時】 令和5年3月4日(土) 11:00~15:30

【場 所】 パレットごうつ 大ホール (Zoomと併用のハイブリッド)

【参加者】 対面46名 Web15名 計61名

【講 師】	第1部	あさひ診療所	所長	上野 伸行 先生
		益田赤十字病院	総合診療科部長	岡本 栄祐 先生
	第2部	島根県立中央病院	総合診療科	吉村 菜実 先生
		益田赤十字病院	総合診療科	青木 光 先生
		益田赤十字病院	総合診療科	波多野拓也 先生
		津和野共存病院	内科	木田川幸紀 先生

【概 要】 第1部は、上野先生が「ACPと意思決定支援について」というテーマで、先生自身が経験された症例をもとにお話しをされた。その中で「患者本人の価値観・人生観を共有することが重要である」と強調された。続いて、岡本先生が「医者何十年目、総合診療医が自宅で看取りをしてみました」をテーマに、様々な事に葛藤しながら家族を看取られたお話をされ、参加者も真剣な眼差しで聴講した。

第2部は「感じてみよう、総合診療医の日常」というテーマで、吉村先生、青木先生、波多野先生、木田川先生に、自身の自己紹介や、総合医の日常、経験した症例等をお話しいただいた。グループディスカッションも行われ、活発な意見交換が行われた。また、休憩時間中には、この春島根大学医学部に入学する高校生の自己紹介および、島根県内11病院のプログラム紹介ビデオが上映された。

## (2) 全国セミナーへの参加 (学生への学会等参加支援)

【日 時】 令和4年6月11日(土)~令和4年6月12日(日)

【場 所】 パシフィコ横浜

【件 名】 第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

【参加者】 医学生3名 (6年1名、3年2名)

【内 容】 「検査・診断」および「悪性腫瘍」についての演習、シンポジウム参加・ポスター見学



**(3) アメリカ心臓協会BLSコース (HeartCode®BLS) 開催**

【日 時】 令和4年4月26日(火) 13:00~16:00

【場 所】 みらい棟2階 共通カンファレンス室 I

【参加者】 2名

【講 師】 日本ACLS協会 島根ECCトレーニングサイト  
インストラクター

アメリカ心臓協会 HeartCode® BLS は、オンライン学習パートを修了後、会場での短時間スキルパートを受講することで、プロバイダーカードの取得ができるコロナ禍における新しい生活様式に沿った次世代型のBLSコースである。

今回は、当講座の教員2名を対象として開催した。受講生はインストラクターの指導の下、DVDを見ながら成人・小児・乳児の心肺蘇生法及びAEDの使用方法や、ポケットマスク・バックバルブマスク等の手技を学習実践した。

**④ 医療機関・医師会・行政等と連携した総合診療医についての普及啓発****(1) 総合診療専門医育成プログラムについてのパンフレット改訂 (第8版)**

【実施時期】 令和4年8月

【印刷部数】 300部

【配布先】 県内病院等39ヶ所

**(2) しまね地域医療センターとの連携**

- ・第1回しまね専門研修プログラムWeb説明会 令和4年7月19日(火)
- ・第2回しまね専門研修プログラムWeb説明会 令和4年10月24日(月)から28日(金)

**(3) 大学との連携****■大学院コース等の支援**

博士課程：地域医療・地域包括ケア指導者育成コース

修士課程：地域包括ケア人材養成コース (医療経営重点)

そ の 他：①島根大学病院総合診療専門医コース

②地域包括ケア人材育成コース (インテンシブ)

**■卒後臨床研修センター主催 早朝セミナー (毎週水曜日 7:30 - 8:15)****(4) 医療機関との連携**

総合診療科の活動について11件の論文投稿を行った。

## 7 ワークライフバランス

### ① 教育

#### (1) 男女共同参画講義（キャリア教育）

臨床実習前の医学科4年生対象にした男女共同参画講義（キャリア教育）を島根県医師会と共に、主催している。

【日 時】 令和4年12月15日(木) 9:40~16:10

【場 所】 島根大学医学部P3教室（実習棟3階）

【対 象】 島根大学医学部医学科4年生

【主 催】 島根大学医学部地域医療支援学講座 島根県医師会

【共 催】 日本医師会 島根大学ダイバーシティ推進室  
島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室

【内 容】 ① 講演及びワーク

広島大学医学部附属医学教育センター 教授 蓮沼 直子 先生

② キャリアモデルの紹介

島根大学医学部 呼吸器・臨床腫瘍学 学内講師 濱口 愛 先生

器官病理学 准教授 荒木 亜寿香 先生

高度脳卒中センター 副センター長 安部 哲史 先生

③ 島根大学男女共同参画の取り組み

島根大学学長特別補佐（男女共同参画担当） 河野 美江 先生（Web）

④ 島根県「えんネット」の取り組み

島根大学医学部地域医療支援学講座 助教 堀田 優希江

【医師会特別講演】

「世界のコロナマネジメント」

WHO感染症危機管理シニアアドバイザー 進藤 奈邦子 先生（web）



## (2) ワークライフバランス講義

和歌山大学医学部医学科1年生に対して、医学概論Ⅱの講義を「ワークライフバランスとヘルスプロモーション」と題して教授 佐野がオンラインにて担当した。学生たちは興味を持って聴講していた。

## (3) 医師生活密着型実習

医師密着型実習とは、島根でがんばる医師に同行して実習を行い、自分の将来像を探すことを目的にした実習である。今年度は応募がなかったが募集中である。

協力女性医師の所属

- ・ 出雲徳洲会病院
- ・ 飯南病院
- ・ 浜田国保診療所連合体
- ・ 島根大学医学部附属病院 など

## (4) セミナーの開催

### ■ワークライフバランスセミナー

【テーマ】 医療従事者の仕事のやり甲斐と幸福感 ～ Well-being ～

【日時】 令和4年9月21日(月) 18:00～19:00

【場所】 島根大学医学部みらい棟4階 ギャラクシー

Zoomを使用したハイブリッド形式

【対象】 学生、医療関係者

【主催】 島根大学医学部地域医療支援学講座

【共催】 島根大学ダイバーシティ推進室

医学部附属病院

ワークライフバランス支援室

【講師】 石川県立大学 教養教育センター

教授 澤田 忠幸 先生

【参加者】 30名



【概要】先生は「ウェルビーイング」を、“個人の精神的健康のポジティブな側面に着目した概念”と説明され、「主観的幸福感」と「心理的ウェルビーイング」の2側面があると話された。心理的ウェルビーイングは「生きがいを感じられること、夢に向かって充実していること」といったポジティブな心理状態を意味する。その尺度として、6次元の定義（Ryff）を紹介された。ウェルビーイングの研究において、近年特に注目されているのが「信頼できる他者関係が築けているか」という点であり、コロナ禍におけるメンタルヘルスと関連していると教示頂いた。

講演を通し、自己のキャリアを振り返ると、WLB・キャリアデザイン・ウェルビーイングはつながっていることを実感した。まずは、心理的安全性の保証等講演からの学びを職場にフィードバックすることが重要であると感じた。

## ② 学生との交流

女性医師の働き方、女性医師同士の横のつながりを持つために開催した。  
女性医師らと学生とで議論が深まった。

### ■第1回えんネット交流会

【日時】令和4年10月3日(月) 17:30~19:00

【場所】島根大学医学部みらい棟2階 共通カンファレンスⅠ  
Zoomによるハイブリッド開催

【参加者】(敬称略 順不同)

荒木亜寿香(病理部)

木村かおり(法医学講座)

中尾 美香(呼吸器・化学療法内科、先進医療管理センター)

平山 靖子(耳鼻咽喉・頭頸部外科)

堀田優希江(地域医療支援学講座)

学生5名

【概要】今回は主に、『医師の働き方』について話が盛り上がった。仕事と子育ての両立については、これまで女性医師や女子学生の関心が高かった。しかし、男性の育児休業法の改正等を通じ、男子学生の意識も変化しつつあるようだ。男性の育児休業について、学生から「キャリアの継続ができるか心配である」という声が挙がった。これに対し医師からは、「長い人生で考えると、1年くらいキャリアが遅れても特に問題とはならない。その時は焦りを感じるかもしれないが、その時にしかできない家族と過ごす時間も貴重である」と話された。仕事と家庭を両立している医師に直接話を聞くことができ、学生にとっても貴重な時間となったように考える。

## ■第2回えんネット交流会

【日時】 令和5年2月20日(月) 17:00~18:00

【場所】 島根大学医学部みらい棟2階 共通カンファレンスⅠ

【参加者】 (敬称略 順不同)

鞆嶋 有紀 (小児科学講座)

佐野 千晶 (地域医療支援学講座)

堀田優希江 (地域医療支援学講座)

学生2名

【概要】 今年度第2回えんネット交流会を開催した。今回は参加人数5名と少人数であったが、距離が近い分、お互いについてじっくりと話し合い、知ることができた。仕事と家庭の両立については、“子供がいる、いない”で変わってくるが、どちらかの立場にしか立つことができず、互いの理解が及ばない場合、誤解が生じ軋轢を生んでしまうことが話題に上った。

キャリアについての考え方・歩み方も様々である。参加者の考えを聴き、思いを共有する中で、課題から生まれる新たな仕組み作りが発想できるのではないかと考える。

また、今回初めて参加した学生からは、「楽しかった。もっといろいろな人にこの会のことを知って欲しい。」と感想をもらった。参加するのはハードルが高いと感じる方もあるかもしれませんが、ちょっとのぞいてみませんか。笑顔で皆さんをお迎えします。



## ③ 就労支援

### (1) 相談窓口

平成26年8月から働き方に不安を抱える方の窓口（えんネット）を設置し、出産・育児後の女性医師等が安心して職場復帰や、現在の働き方に悩みを抱える医師のために個々に応じた復職への相談も受け付けている。復職支援プログラム作成や復職に向けたシミュレーション教育等を支援して、専門に応じた対応が必要な場合は、支援担当員として協力いただく専門科の先生に相談を受けることも可能としている。

#### ■相談件数 20件

相談窓口事業の相談内容

- ① 子育てと仕事の両立方法
- ② 離職後の段階的なスキルアップについて
- ③ 異動先の研修施設 院内保育所等 福利厚生状況
- ④ 身体的不調, 精神的不調, ライフイベントに関連した働き方
- ⑤ ライフイベントと奨学金返還免除期間

### (2) 復職サポート

職場紹介、雇用についてサポートを行っている。勤務が開始された後は健康面、精神面での定期的なフォローを行っている。

職場紹介実績 1件

## ④ 研究

### ■学生のキャリア選択についての研究

研究代表者：佐野 千晶

医学生のカリヤ認識が、どういった生物学的因子、社会的因子、経済的因子、環境因子、教育機会因子と関連しているのかについてキャリア・アンカー理論を応用し、研究している。

医学科1年生と医学科4年生に対してキャリア思考やWLBについてのアンケート調査を行っている。

## ⑤ 広報

### (1) えんネットマガジンの発行

特集：地域医療の現場で活躍する女性医師たち

飯南町立飯南病院の重栖友美恵先生、馬淵沙弥佳先生へインタビュー取材を行った。

若手医師から地域病院の魅力についてたくさん語っていただいた。

### (2) えんネットホームページ

キャリア支援・両立支援や学生支援の情報、学生教育について適宜更新している

<https://www.en-net.jp>

### (3) えんネットグッズの作成

えんネットの活動周知のためにグッズを作成し、配布した。  
本年度は、メモ帳、かばんを作成した。



## ⑥ 託児付セミナー支援

- 島根県糖尿病療養指導士認定研修会（松江市立病院）  
令和4年10月1日（土） 12：30～20：00  
令和4年10月2日（日） 8：00～13：00
- 竹あかりリレー準備会  
（世界糖尿病デー出雲大社ブルーライトアップ事務局）  
令和4年10月9日（日） 9：00～12：00
- 島根県糖尿病療養指導士認定研修会（松江市立病院）  
令和4年12月10日（土） 11：00～19：30
- 島根県糖尿病療養指導士認定研修会（松江市立病院）  
令和4年12月11日（日） 7：30～12：30
- 島根県糖尿病療養指導士認定研修会（益田赤十字病院）  
令和5年3月4日（土） 12：30～19：30  
令和5年3月5日（日） 8：00～13：00





# 業績

## ACHIEVEMENTS

### 【論文】

1. Takayuki Tachibana, Naoto Mouri, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; A Case of Complicated Pneumonia Caused by *Klebsiella ozaenae*. (March 09, 2022) *Cureus* 14(3): e23001. doi:10.7759/cureus.23001
2. Ryuichi Ohta, Satoko Maejima, Chiaki Sano; Nurses' Contributions in Rural Family Medicine Education: A Mixed-Method Approach. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2022, 19(5), 3090; <https://doi.org/10.3390/ijerph19053090> (IF 3.390)
3. Ryuichi Ohta, Yoshinori Ryu, Chiaki Sano; Older People's Help-Seeking Behaviors in Rural Contexts: A Systematic Review. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2022, 19(6), 3233; <https://doi.org/10.3390/ijerph19063233> (IF 3.390)
4. Masayoshi Kusunoki, Ryuichi Ohta, Nozomi Nishikura, Chiaki Sano; *Yersinia pseudotuberculosis* Bacteremia Complicated by Rhabdomyolysis. (March 15, 2022) *Cureus* 14(3): e23192. doi:10.7759/cureus.23192
5. Shiho Amano, Kohei Oka, Yutaka Sato, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Measuring Factor XIII Inhibitors in Patients with Factor XIII Deficiency: A Case Report and Systematic Review of Current Practices in Japan. *Journal of Clinical Medicine* 2022, 11(6), 1699; <https://doi.org/10.3390/jcm11061699> (IF 4.242)
6. Ryuichi Ohta, Yoshinori Ryu, Chiaki Sano; The Relationship Between the Presence of White Nails and Readmission Among Rural Older Admitted Patients: A Prospective Cohort Study. (April 19, 2022) *Cureus* 14(4): e24297. doi:10.7759/cureus.24297
7. Ryuichi Ohta, Koichi Maiguma, Akiko Yata, Chiaki Sano; A Solution for Loneliness in Rural Populations: The Effects of Osekkai Conferences during the COVID-19 Pandemic. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2022, 19(9), 5054; <https://doi.org/10.3390/ijerph19095054> (IF 4.614)
8. Ryoko Yamauchi, Ryuichi Ohta, Mari Igarashi, Yasuo Kurita, Miho Hayakawa, Chiaki Sano; Pseudogout as a Cause of Fever of Unknown Origin Following Staphylococcal Bacteremia in an Older Patient. (April 21, 2022) *Cureus* 14(4): e24333. doi:10.7759/cureus.24333
9. Kasumi Nishikawa, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Factors Associated with Motivation for General Medicine among Rural Medical Students: A Cross-Sectional Study. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2022, 19(9), 5102; <https://doi.org/10.3390/ijerph19095102> (IF 4.614)
10. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Reflection in Rural Family Medicine Education. *International*



- Journal of Environmental Research and Public Health 2022, 19(9), 5137; <https://doi.org/10.3390/ijerph19095137> (IF 4.614)
11. Ryuichi Ohta, Yoshinori Ryu, Chiaki Sano; Association between Self-Medication for Mild Symptoms and Quality of Life among Older Adults in Rural Japan: A Cross-Sectional Study. *Medicina* 2022, 58(6), 701; <https://doi.org/10.3390/medicina58060701> (IF 2.948)
  12. Ryuichi Ohta, Yoshinori Ryu, Chiaki Sano; Improvement in Quality of Life through Self-Management of Mild Symptoms during the COVID-19 Pandemic: A Prospective Cohort Study. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2022, 2022, 19(11), 6652; <https://doi.org/10.3390/ijerph19116652> (IF 4.614)
  13. Hirara Watase, Kohei Oka, Fumiko Yamane, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Hemodialysis-Related Pericarditis With Cardiac Tamponade. (May 05, 2022) *Cureus* 14(5): e24748. doi:10.7759/cureus.24748
  14. Sayaka Mabuchi, Ryuichi Ohta, Keiko Egawa, Yoko Narai, Chiaki Sano; Granulomatous Mastitis With Erythema Nodosum During Pregnancy: A Case Report. (May 14, 2022) *Cureus* 14(5): e24990. doi:10.7759/cureus.24990
  15. 多田納 豊, 佐野 千晶, 清水 利朗, 富岡 治明; 生薬による抗酸菌症治療 — Th17の免疫機能調節との関連から— 結核 第97巻 第3号 2022年5-6月
  16. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Bedside Teaching in Rural Family Medicine Education in Japan. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2022, 19(11), 6807; <https://doi.org/10.3390/ijerph19116807> (IF 4.614)
  17. Takashi Koike, Ryuichi Ohta, Yuhei Matsuda, Chiaki Sano, Takahiro Kanno; Oral Care Awareness and Factors Related to the Burden of Nurses at a Community Hospital in Japan. *Healthcare* 2022, 10(6), 1073; <https://doi.org/10.3390/healthcare10061073> (IF 3.160)
  18. Masayoshi Kusunoki, Ryuichi Ohta, Kentaro Suzuki, Takayuki Maki, Chiaki Sano; Inquiry into Physicians' Scope of Practice in Japanese Rural Hospitals During the COVID-19 Pandemic: A Serial Cross-Sectional Study. (June 21, 2022) *Cureus* 14(6): e26164. doi:10.7759/cureus.26164
  19. Toshiki Fukunaga, Ryuichi Ohta, Fumiko Yamane, Chiaki Sano; Adult-Onset Still's Disease with Severe Hyperferritinemia and the Asian Salmon-Pink Rash: A Case Report. (June 23, 2022) *Cureus* 14(6): e26257. doi:10.7759/cureus.26257
  20. Ryuichi Ohta, Koichi Maiguma, Akiko Yata, Chiaki Sano; Rebuilding Social Capital through Osekkai Conferences in Rural Communities: A Social Network Analysis. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2022, 19(13), 7912; <https://doi.org/10.3390/ijerph19137912> (IF 4.614)
  21. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Rural Easy Japanese as a Method of Mitigating Language Barriers Among Foreigners Seeking Medical Care in Rural Japan. (July 09, 2022) *Cureus* 14(7): e26693. doi:10.7759/cureus.26693

22. Kenichi Oshikiri, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Food Aspiration Induced Hypoxic Encephalopathy Leading to Status Epilepticus. (July 12, 2022) *Cureus* 14(7): e26766. doi:10.7759/cureus.26766
23. Shiho Amano, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Iliopsoas Pyomyositis With Bacteremia at an Early Stage of Presentation in a Temperate Region. (July 14, 2022) *Cureus* 14(7): e26854. doi:10.7759/cureus.26854
24. Ryuichi Ohta, Akiko Yata, Chiaki Sano; Students' Learning on Sustainable Development Goals through Interactive Lectures and Fieldwork in Rural Communities: Grounded Theory Approach. *Sustainability* 2022, 14(14), 8678; <https://doi.org/10.3390/su14148678> (IF 3.889)
25. Tatsuhiko Okayasu, Ryuichi Ohta, Mari Igarashi, Yasuo Kurita, Miho Hayakawa, Chiaki Sano; Coexistence of Pancytopenia and Myositis After Developing COVID-19. (July 18, 2022) *Cureus* 14(7): e26978. doi:10.7759/cureus.26978
26. Remi Oi, Ryuichi Ohta, Yukiko Shiba, Chiaki Sano; The Importance of “Easy Japanese” : Communicating Health Information to Foreigners in Japan. (July 19, 2022) *Cureus* 14(7): e27036. doi:10.7759/cureus.27036
27. Ryuichi Ohta, Nozomi Nishikura, Chiaki Sano; Peripheral T-cell Lymphoma With Acute Exacerbating Fatigue and Chest Pain: A Case Report. (July 28, 2022) *Cureus* 14(7): e27415. doi:10.7759/cureus.27415
28. Ryuichi Ohta, Tatsuhiko Okayasu, Noritaka Katagiri, Takafumi Yamane, Minami Obata, Chiaki Sano; Giant Cell Arteritis Mimicking Polymyalgia Rheumatica: A Challenging Diagnosis. (July 31, 2022) *Cureus* 14(7): e27517. doi:10.7759/cureus.27517
29. Noritaka Katagiri, Ryuichi Ohta, Fumiko Yamane, Chiaki Sano; Hashimoto Encephalopathy of a Middle-Aged Man With Progressive Symptoms of Dementia. (July 31, 2022) *Cureus* 14(7): e27518. doi:10.7759/cureus.27518
30. Yasuhisa Nakano, Kota Saka, Fumiko Yamane, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; A Case of Legionella Pneumonia in an Older Patient Without Typical Exposure to a Susceptive Environment. (July 31, 2022) *Cureus* 14(7): e27541. doi:10.7759/cureus.27541
31. Ayuko Tokonami, Ryuichi Ohta, Noritaka Katagiri, Naho Yoshioka, Fumiko Yamane, Chiaki Sano; Autoimmune Vasculitis Causing Acute Bilateral Lower Limb Paralysis. (August 03, 2022) *Cureus* 14(8): e27651. doi:10.7759/cureus.27651
32. Naho Yoshioka, Yumi Naito, Keisuke Sano, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Seronegative Ocular Myasthenia Gravis in an Older Woman With Transient Dizziness and Diplopia. (August 09, 2022) *Cureus* 14(8): e27826. doi:10.7759/cureus.27826
33. Chihiro Tanaka, Yumi Naito, Shoichi Suehiro, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Device-Related Thrombotic Microangiopathy in an Elderly Patient With a History of Aortic Surgery. (August 12, 2022) *Cureus* 14(8): e27937. doi:10.7759/cureus.27937

34. Ryuichi Ohta, Miyuki Yawata, Chiaki Sano: Doctor Clerk Implementation in Rural Community Hospitals for Effective Task Shifting of Doctors: A Grounded Theory Approach. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2022, 19(16), 9944; <https://doi.org/10.3390/ijerph19169944> (IF 4.614)
35. Ryuichi Ohta, Emily Weiss, Magda Mekky, Chiaki Sano: Relationship between Dysphagia and Home Discharge among Older Patients Receiving Hospital Rehabilitation in Rural Japan: A Retrospective Cohort Study. *Journal of Environmental Research and Public Health* 2022, 19(16), 10125; <https://doi.org/10.3390/ijerph191610125> (IF 4.614)
36. Yutaro Yamamoto, Ryuichi Ohta, Yudai Tanaka, Go Mishiro, Chiaki Sano; Localized Pancreatitis in an Elderly Patient Without Suspected Etiology. (August 15, 2022) *Cureus* 14(8): e27937. doi:10.7759/cureus.27937
37. Kai Shimizu, Yuta Horinishi, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Infection Route of *Parvimonas micra*: A Case Report and Systematic Review. *Healthcare* 2022, 10(9), 1727; <https://doi.org/10.3390/healthcare10091727> (IF 3.160)
38. Soshi Takagi, Yumi Naito, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Secondary Failure of Tocilizumab in Treating Elderly-Onset Rheumatoid Arthritis With Systemic Symptoms Complicated by Diverticulum Perforation. (August 24, 2022) *Cureus* 14(8): e28357. doi:10.7759/cureus.28357
39. Ryuichi Ohta, Naho Yoshioka, Fumiko Yamane, Maika Hayashi, Chiaki Sano; Anti-Mi2 Antibody Positive Dermatomyositis With Hyper-Elevated Creatine Kinase: A Case Report. (September 07, 2022) *Cureus* 14(9): e28899. doi:10.7759/cureus.28899
40. Nozomi Nishikura, Ryuichi Ohta, Noritaka Katagiri, Tatsuhiko Okayasu, Chiaki Sano; Refractory Immunoglobulin A (IgA) Vasculitis in an Elderly Patient: A Case Report. (September 10, 2022) *Cureus* 14(9): e28996. doi:10.7759/cureus.28996
41. Tatsuhiko Okayasu, Ryuichi Ohta, Fumiko Yamane, Satoshi Abe, Chiaki Sano; Hypoglossal Nerve Palsy Following COVID-19 Vaccination in a Young Adult Complicated by Various Medicines. (September 15, 2022) *Cureus* 14(9): e29212. doi:10.7759/cureus.29212
42. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Associations between Perception of Help-Seeking Behaviors and Quality of Life among Older People in Rural Communities: A Cross-Sectional Study. *Journal of Environmental Research and Public Health* 2022, 19(20), 13331; <https://doi.org/10.3390/ijerph192013331> (IF 4.614)
43. Hirotaka Ikeda, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Risk Factors for Delayed Diagnosis of Acute Cholecystitis among Rural Older Patients: A Retrospective Cohort Study. *Medicina* 2022, 58(10), 1392; <https://doi.org/10.3390/medicina58101392> (IF 2.948)
44. Maika Hayashi, Ryuichi Ohta, Fumiko Yamane, Tsuyoshi Mishiro, Chiaki Sano; Eosinophilic Gastroenteritis in the Small Intestine Mimicking Eosinophilic Granulomatosis With Polyangiitis in a Young Male Patient. (October 01, 2022) *Cureus* 14(10): e29813. doi:10.7759/cureus.29813

45. Kotaro Murakami, Yudai Tanaka, Tsuyoshi Mishiro, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Gallstone Hepatitis Caused by Transient Common Bile Duct Obstruction in a Middle-Aged Woman. (October 11, 2022) *Cureus* 14(10): e30192. doi:10.7759/cureus.30192
46. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Family Physicians as System-Specific Specialists in Japan's Aging Society. (October 28, 2022) *Cureus* 14(10): e30811. doi:10.7759/cureus.30811
47. Hiroyuki Furuta, Yudai Tanaka, Tsuyoshi Mishiro, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Possible Macrophage Activation Syndrome Caused by Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography for Bacteremia Due to Chronic Cholelithiasis. (October 31, 2022) *Cureus* 14(10): e30932. doi:10.7759/cureus.30932
48. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Implementation of the Principles of Family Medicine in Modern Family Medicine Education Needing System-Specific Approaches. (November 06, 2022) *Cureus* 14(11): e31177. doi:10.7759/cureus.31177
49. Fumiko Yamane, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Factors Related to Percutaneous Coronary Intervention among Older Patients with Heart Disease in Rural Hospitals: A Retrospective Cohort Study. *BioMedInformatics* 2022, 2(4), 593-602; <https://doi.org/10.3390/biomedinformatics2040038>
50. Kaho Aoe, Yuta Horinishi, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Seronegative Rheumatoid Arthritis in an Elderly Patient With Anemia: A Case Report. (December 05, 2022) *Cureus* 14(12): e32239. doi:10.7759/cureus.32239
51. Miki Nanyoshi, Shiho Amano, Taichi Fujimori, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Tuberculous Pleurisy Diagnosed From Massive Pleural Effusion in an Older Patient With No History of Tuberculosis. (December 08, 2022) *Cureus* 14(12): e32333. doi:10.7759/cureus.32333
52. Ryuichi Ohta, Yoshihiro Moriwaki, Chiaki Sano; Association between Survival Duration of Older Patients with Advanced Unresectable Pancreatic Cancer and Appetite Loss: A Retrospective Cohort Study. *Healthcare* 2022, 10(12), 2525; <https://doi.org/10.3390/healthcare10122525> (IF 3.160)
53. Ryuichi Ohta, Takuji Katsube, Chiaki Sano; Challenges in Help-Seeking Behaviors among Rural Older People Mitigated through Family Physician-Driven Outreach: A Systematic Review. *Journal of Environmental Research and Public Health* 2022, 19(24), 17004; <https://doi.org/10.3390/ijerph192417004> (IF 4.614)
54. Atsuki Katsube, Junya Ohara, Yuta Horinishi, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; A Case of Capillary Leak Syndrome and Intestinal Ischemia Caused by Rheumatoid Vasculitis. (January 05, 2023) *Cureus* 15(1): e33404. doi:10.7759/cureus.33404
55. Yuta Horinishi, Junko Yurizawa, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Subacute Bacterial Cellulitis With a Subacute Clinical Course With Difficulty in Distinguishing From Sjögren's Syndrome: A Case Report. (January 09, 2023) *Cureus* 15(1): e33554. doi:10.7759/cureus.33554

56. Junji Uchiyama, Yudai Tanaka, Yasuo Kurita, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Multiple Prostatic Abscesses Caused by *Staphylococcus aureus* Without Physical Findings in an Immunosuppressed Older Patient. (January 09, 2023) *Cureus* 15(1): e33555. doi:10.7759/cureus.33555
57. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; The Effectiveness of Family Medicine-Driven Interprofessional Collaboration on the Readmission Rate of Older Patients. *Healthcare* 2023, 11(2), 269; <https://doi.org/10.3390/healthcare11020269> (IF 3.160)
58. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Differentiating between Seronegative Elderly-Onset Rheumatoid Arthritis and Polymyalgia Rheumatica: A Qualitative Synthesis of Narrative Reviews. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2023, 20(3), 1789; <https://doi.org/10.3390/ijerph20031789> (IF 4.614)
59. Hidetaka Tabata, Yuta Horinishi, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; A Case of Pseudoappendicitis Caused by *Campylobacter* Enteritis Diagnosed by Gram Staining and Direct Microscopic Investigation of Stool Specimen. (January 19, 2023) *Cureus* 15(1): e33980. doi:10.7759/cureus.33980
60. Yuki Takebuchi, Airi Minatogawa, Yumi Naito, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Acute Exacerbation of Hypereosinophilic Syndrome Complicated With Dermatitis, Enteritis, and Myositis: A Case Report. (January 23, 2023) *Cureus* 15(1): e34090. doi:10.7759/cureus.34090
61. Ryuichi Ohta, Kotaro Murakami, Yudai Tanaka, Tsuyoshi Mishiro, Chiaki Sano; Difficulty in Diagnosing Anti-neutrophil Cytoplasmic Antibody-Related Vasculitis With Interstitial Pneumonia and in Ascertaining the Cause of Associated Hematochezia: A Case Report. (January 23, 2023) *Cureus* 15(1): e34091. doi:10.7759/cureus.34091
62. Airi Minatogawa, Junya Ohara, Yuta Horinishi, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Meningitis With *Staphylococcus aureus* Bacteremia in an Older Patient With Nonspecific Symptoms: A Case Report. (January 24, 2023) *Cureus* 15(1): e34153. doi:10.7759/cureus.34153
63. Yusuke Akashi, Yuta Horinishi, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Deciding a Treatment Plan for an Older Patient With Severe Idiopathic Pulmonary Fibrosis: A Case Report. (January 24, 2023) *Cureus* 15(1): e34154. doi:10.7759/cureus.34154
64. Yumi Naito, Soshi Takagi, Keita Inoue, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Right-Sided Urinary Extravasation Caused by a Ureteral Stone and Associated With Peritonitis in an Older Woman. (January 24, 2023) *Cureus* 15(1): e34174. doi:10.7759/cureus.34174
65. Motoaki Imawaka, Yudai Tanaka, Tsuyoshi Mishiro, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Heyde Syndrome Complicated by Essential Thrombocythemia: A Case Report. (February 12, 2023) *Cureus* 15(2): e34905. doi:10.7759/cureus.34905
66. Wataru Shiraishi, Riko Okada, Yudai Tanaka, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta; Metabolism-Mediated Thrombotic Microangiopathy in an Older Patient Without Malnutrition. (February

13, 2023) Cureus 15(2): e34951. doi:10.7759/cureus.34951

67. Ryuichi Ohta, Chiaki Sano; Appearance of Ankylosing Spondylitis in a Middle-Aged Female Patient With a Long History of Rheumatoid Arthritis. (February 13, 2023) Cureus 15(2): e34952. doi:10.7759/cureus.34952

### 【著書】

1. 佐野 千晶：針刺し事故への対応（分担執筆）すぐ見て・すぐわかり・すぐ使える眼科薬剤処方 谷戸 正樹 編集，南江堂，東京，290-295（全316頁），2022年12月25日発行 ISBN978-4-524-23057-0

### 【学会発表】

1. 堀西 祐多，清水 嘉偉，太田 龍一，佐野 千晶：高齢者の食道裂孔ヘルニアにおける外科的介入に関するシステマティックレビュー. 第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，口頭発表 ライブ，横浜 2022年6月11日～6月12日 後日オンデマンド配信
2. 天野 志保，太田 龍一，佐野 千晶：高齢患者の貧血による再入院率の影響. 第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，口頭発表 ライブ，横浜 2022年6月11日～6月12日 後日オンデマンド配信
3. 横溝 加奈子，友實 桃子，太田 龍一，佐野 千晶：重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の日本における臨床像と死亡率. 第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，口頭発表 ライブ，横浜 2022年6月11日～6月12日 後日オンデマンド配信
4. 藤森 太一，太田 龍一，佐野 千晶：地域病院における診断エラーの現状とそれに関連する要因：後ろ向きコホート. 第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，口頭発表 ライブ，横浜 2022年6月11日～6月12日 後日オンデマンド配信
5. 西川 香澄，太田 龍一，佐野 千晶：医学生の総合診療に対するモチベーションと影響する因子との関連性：横断研究. 第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，口頭発表 ライブ，横浜 2022年6月11日～6月12日 後日オンデマンド配信（大会長 大橋 博樹）
6. 池田 啓孝，太田 龍一，西倉 希，佐野 千晶：繰り返す発熱で来院され血液培養陽性から診断に至った感染性肝嚢胞の一例. 第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，ポスター，横浜 2022年6月11日～6月12日
7. 毛利 直人，太田 龍一，佐野 千晶：重症腎障害の原因として見つかった円柱腎症の1例. 第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，ポスター，横浜 2022年6月11日～6月12日
8. 床並 亜有子，太田 龍一，田中 悠大，天野 志保，佐野 千晶：関節症状の乏しい関節リウマチ患者における心タンポナーデを伴った心外膜炎の一例. 第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，ポスター，横浜 2022年6月11日～6月12日
9. 馬淵 沙弥佳，太田 龍一，佐野 千晶：ドレナージのみで軽快した、結節性紅斑を合併した肉芽腫性乳腺炎の妊婦の一例. 第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，ポスター，横浜 2022年6月11日～6月12日

- 10.大井 礼美, 太田 龍一, 芝 由紀子, 佐野 千晶: やさしい日本語という技術. 第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 学生セッション ポスター, 横浜 2022年6月11日～6月12日
- 11.多田納 豊, 佐野 千晶, 富岡 治明: シンポジウム9: 抗酸菌感染症での免疫の関わり 1. 抗酸菌感染により誘導される宿主免疫応答の防御作用と重症化への関与 ～IL-17産生細胞の誘導と機能について～. 第97回日本結核・非結核性抗酸菌症学会 口頭発表 旭川 2022年7月2日, (会期: 7/1-7/2)
- 12.佐野 千晶: シンポジウム: 新型コロナウイルス感染症対策の取り組みと今後に向けて 1. 病院でのコロナ対策に苦慮している点 日本医療マネジメント学会第20回島根支部学術集会 口頭発表 島根県雲南市 2022年10月1日
- 13.白鳥 博之, 山崎 祐次郎, 足立 孝子, 滝沢 章, 宮迫 瑞穂, 武淵 裕貴, 足立 元, 根本 卓也, 佐野 千晶: 学生主体の多職種連携団体が開いた2 学部合同ジョイント多職種連携教育の実践. 動画口頭発表 第15回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会 ライブ配信 2022年11月13日 / オンデマンド配信 11月5日～11月30日 フルオンライン

### 【学会以外の発表】

1. 佐野 千晶: 島根大学医学部 これまでの地域医療教育と今後の取り組みについて. 多様な山・里・海を巡り個別最適に学ぶ「多地域共創型」医学教育拠点の構築 キックオフシンポジウムポストコロナ医療人養成事業 2022年11月4日
2. 佐野 千晶, 布野 慶人, 堀田 優希江, 宅野 真由美: 地域医療関係講座の現状と課題 島根大学医学部地域医療支援学講座. 第12回中四国地域医療フォーラム プレ集会, オンラインライブ口頭発表 2023年2月4日 高知
3. 佐野 千晶, 布野 慶人, 堀田 優希江, 宅野 真由美, 児玉 信広, 井原 正貴, 御輿 大河, 佐々井 麻利子: 多様なキャリアを支援する制度の在り方と医師確保の両立について 島根大学医学部地域医療支援学講座 しまね地域医療支援センター 第12回中四国地域医療フォーラム 本集会, オンラインライブ口頭発表 2023年2月4日 高知

### 【講演】

1. 佐野 千晶: 医学部教育現場における指導教員の First impressions が若者学習者へ及ぼす影響 一個人的経験より (ファシリテーター ミニレクチャー) 令和3年度しまね指導医オープンミーティング (対面) 2022年3月20日, 島根県大田市・あすてらす, 参加者 指導医等10名, 主催: しまね地域医療支援センター
2. 佐野 千晶: 第1回 変わっていくコロナウイルスと感染対策 島根大学市民公開講座「ココが知りたい! コロナウイルス感染症 一エキスパートが解説」全4回シリーズ中の単回 (オンデマンド) 2022年6月25日～9月30日, ディレクター 岩下 義明
3. 佐野 千晶: 島根大学医学部地域医療支援学講座 取り組み報告, 令和4年度しまね地域医療の会 (ハイブリッド 対面発表) 2022年6月25日, 出雲・出雲ロイヤルホテル, 会長 山口 修平

4. 佐野 千晶：島根大学医学部附属病院関連病院長会議 感染対策の取組（対面） 2022年11月17日，出雲・医学部臨床大講堂 島根大学医学部附属病院
5. 佐野 千晶：ALISの副作用軽減と効果発現増強を狙った基礎的考察 インスメッド合同会社社内勉強会（ライブオンライン） 2022年12月6日，出雲・ニューウエルシティ出雲

### 【意匠登録】

着脱しやすい「医療用フェイスシールド」 研究開発 島根大学医学部附属病院 【知的財産権】  
意匠登録 第1697768号 登録日2021年10月4日 販売開始 2022年～

### 【その他】

1. 佐野 千晶：全国地域医療教育協議会（JCOME） 2022年度第1回社員総会 2022年3月25日 オンライン
2. 佐野 千晶：講師「院内感染予防対策」 2022年度島根大学医学部附属病院研修医・新入職員オリエンテーション 2022年4月1日 対面
3. 佐野 千晶：座長 要望課題 抗酸菌症の基礎研究 R9-01～R9-08 8題，第97回日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会，対面，2022年7月1日，旭川 星野リゾート OMO7旭川（会期：7/1-2）
4. 佐野 千晶：令和4年度 島根県医師会男女共同参画委員会 2022年8月24日 オンライン
5. 佐野 千晶：外部評価委員（保健部門） 島根県保健環境科学研究所 調査研究課題等検討委員会，オンライン，2022年8月29日，（島根県保健環境科学研究所）
6. 布野 慶人：BLS ACLS インストラクター 2022年6月・8月・10月・12月 2023年3月
7. 佐野 千晶：コメンテーター 第62回鹿児島地域医療教育報告会，地域医療研究報告，オンライン，2022年9月10日，（主催：鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 地域医療学分野／離島へき地医療人育成センター 大脇 哲洋）
8. 佐野 千晶，堀田 優希江，布野 慶人，宅野 真由美：富山大学・富山県との医学科卒前支援プラン意見交換会 2022年10月25日：オンライン しまね地域医療支援センター 島根県健康福祉部医師確保対策室
9. 布野 慶人：島根県防災訓練参加 2022年10月 中国地区 DMAT 技能維持訓練
10. 佐野 千晶：病院機能評価 模擬審査 感染制御部 立ち合いと説明 2022年11月17日
11. 佐野 千晶：座長 島根県院内感染制御ネットワーク会議2022年11月27日：オンライン（島根県健康福祉部）島根県コロナ感染管理支援チーム活動報告（島根県健康福祉部感染症対策室）
12. 佐野 千晶：第10回鳥取大学医学部地域医療学講座あり方懇話会 2023年3月6日：オンライン 主催：鳥取大学医学部

### 【学位取得】

1. 布野 慶人：医博乙第334号，2022.9.7，論文名「Factors Associated with Return of Spontaneous Circulation in Out-of-Hospital Cardiopulmonary Arrest Cases」



## 【学会参加／講習受講等】

1. 第9回島根気道アレルギー疾患研究会（佐野）オンライン 主催：島根気道アレルギー疾患研究会 2022年3月17日
2. 第45回日耳鼻医事問題セミナー（Web開催）（堀田）eラーニング受講 2022年3月17日
3. 第4回山陰リサーチミーティング（佐野）オンライン 主催：鳥取大学地域医療学講座 孫大輔，雲南市立病院 太田龍一 2022年4月2日
4. 共用試験医学系臨床実習後OSCE評価者認定講習会（佐野）オンライン 2022年4月24日
5. 令和3年度日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会島根県地方部会総会及び学術講演会（実開催＋Web）（堀田） 2022年4月24日
6. BLS講習 HeartCode®BLS（インストラクター 布野，受講者 佐野 宅野）2022年4月26日
7. 第123回日耳鼻総会・学術講演会（堀田） 2022年5月26～28日
8. 令和4年度出雲うさぎの会学術講演会（実開催＋Web） 2022年6月23日
9. 第5回山陰リサーチミーティング（佐野）オンライン 主催：鳥取大学地域医療学講座 孫大輔，雲南市立病院 太田龍一 2022年7月10日
10. 第6回山陰リサーチミーティング（佐野）オンライン 主催：鳥取大学地域医療学講座 孫大輔，雲南市立病院 太田龍一 2022年9月11日
11. 令和4年度医学系CBT機構派遣監督者講習会（佐野）東京 2022年9月15日
12. 地域医療シンポジウム2022 in ひょうご（佐野，宅野）オンライン 主催：神戸大学大学院地域医療教育学部門 2022年10月8日
13. 第9回日本救急救命学会学術集会（布野）京都橘大学 2022年10月28日
14. 第30回島根県国保地域医療学会（佐野）ハイブリッド開催オンライン参加 主催：島根県国民健康保険診療施設協議会、島根県国民健康保険団体連合会 2022年10月29日
15. 第36回日耳鼻秋季大会（堀田） 2022年11月5～6日
16. 令和4年度しまね臨床研修医合同研修会（佐野）対面 主催：島根県医師会、しまね地域医療支援センター，出雲 朱雀会館 2022年11月25日
17. 地域医療を守り育てる住民活動 全国シンポジウム2022（宅野）オンライン 栃木 主催：公益財団法人地域社会振興財団 後援：自治医科大学 2022年11月26日
18. 第23回島根感染対策セミナー（佐野）オンライン 現地参加 2022年11月27日
19. 国際認証受審に向けた医学教育改善FD（佐野）オンライン受講 2022年12月15日
20. 第73回日本結核・非結核性抗酸菌症学会中国四国支部会（佐野）ハイブリッド オンライン参加2022年12月16日～17日，大会長 谷本安
21. 第7回山陰リサーチミーティング（佐野）オンライン 主催：鳥取大学地域医療学講座 孫大輔，雲南市立病院 太田龍一 2022年12月25日
22. 第14回全国シンポジウム「地域推薦卒医学生の卒前・卒後教育をどうするか」（佐野・堀田・宅野）オンライン 主催：鹿児島大学大学院医歯薬総合研究科 地域医療学分野／離島へき地医療人育成センター，鹿児島大学医学部，全国地域医療教育協議会 2023年2月17日
23. 第4回「女性医師の集い」（堀田）出雲ロイヤルホテル 2023年3月11日



# 写真で見る1年間

## PHOTO

4月 地域枠等特別選抜枠新入生説明会・意見交換会



4月 地域医療ウェビナー



4月 キャリアウェビナー

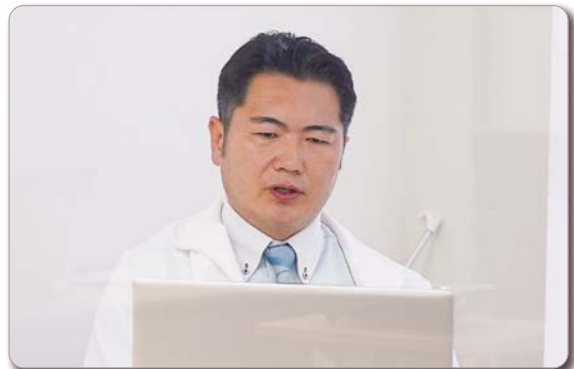


4月 第1回しまね総合診療の集い



5月 地域医療ウェビナー

5月 キャリアウェビナー



島根大学医学部地域医療支援学講座  
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

6月 プライマリ・ケア連合学会学術集会 地域医療体験実習Ⅱ（フレキシブル実習）報告会



6月 地域医療ウェビナー



6月 キャリアウェビナー



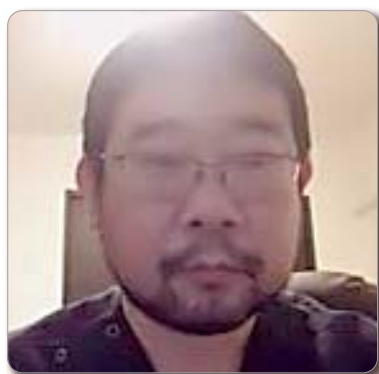
7月 地域医療ウェビナー



7月 キャリアウェビナー



8月 第2回しまね総合診療の集い 「総合診療医ブラッシュアップセミナー」



# 写真で見る 1年間

8月 松江市立病院・松江生協病院・松江赤十字病院見学、島根県知事表敬訪問



8月 研究室配属



8月 地域医療体験実習 I (夏季) 報告会



9月 第3回しまね総合診療の集い 「総合診療医プログラム説明会」



島根大学医学部地域医療支援学講座

メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

9月 ワークライフバランスセミナー（職員 FD）



9月 キャリアウェビナー



10月 キャリアウェビナー



10月 地域医療ウェビナー



10月 第1回えんネット交流会



11月 島根大学医学部地域枠等入学生全学年会



島根大学医学部地域医療支援学講座  
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

# 写真で見る 1年間

11月 地域医療ウェビナー



11月 キャリアウェビナー



12月 地域医療ウェビナー



12月 キャリアウェビナー



12月 地域医療体験実習Ⅱ（フレキシブル実習）、ポストコロナ事業実習 報告会



12月 第4回しまね総合診療の集い



島根大学医学部地域医療支援学講座  
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

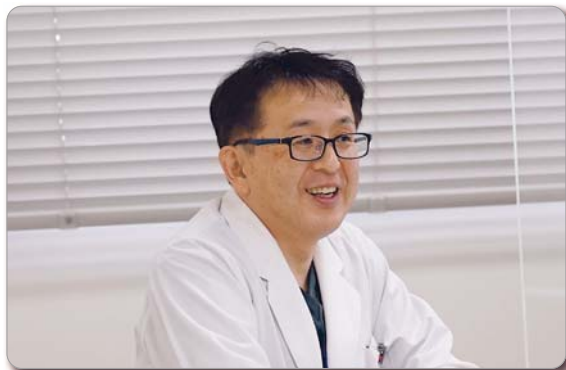
業績

写真で見る1年間

1月 地域医療ウェビナー



1月 キャリアウェビナー



2月 地域医療ウェビナー



2月 キャリアウェビナー



2月 第2回えんネット交流会



3月 地域医療体験実習Ⅰ（春季）



3月 第5回しまね総合診療の集い



## おわりに

MESSAGE

---

コロナ禍が3年目に入る2022年。新型コロナの新規感染者数は一進一退を繰り返しますが、経済活動においては再開に大きく舵を切りました。そして、まったく思いがけない戦争がウクライナで勃発してしまい、世界は混沌とした状況に陥った感があります。

この状況はいつ収束するのでしょうか。一刻も早く普通の生活に戻ってほしいと切に願っています。こうした中、当講座では「コロナ禍」「新しい生活様式」「With コロナ」などという言葉のとおり、新しい教育スタイルを、引き続き模索した一年でもありました。感染予防対策を遵守しながら、できる限り対面での地域医療教育等を行い、対面とWebを併用したハイブリッド型の教育も多数実施してきました。

また、一昨年4月に「しまね総合診療医センター」が開設されたことにより、一層強固な総合医ネットワークが構築され、多面的・多角的な教育が可能となりました。今後も講座全体のブラッシュアップを図り、医学生や総合医の教育に努めてまいります。

「令和」に込められた願いは『一人一人が明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせること』です。この願いはコロナ禍のために様々な制限が掛かり難しくなっていますが、環境や状況が変化しても、学生一人一人が大きく飛躍するよう、これまでとは違った支援をしていきたいと思えます。

学内および学外の関係者の皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和5年3月1日

地域医療支援学講座 助教 布野慶人



島根大学医学部地域医療支援学講座  
令和4年度報告書

---

発行日 ■ 令和5年3月

発行者 ■ 島根大学医学部地域医療支援学講座

教授 佐野 千晶

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

電話(ダイヤルイン)0853-20-2558 FAX 0853-20-2563

E-mail : career@med.shimane-u.ac.jp

URL : <https://www.communityshimane.jp/>

---

印刷・製本 ■ 有限会社 松陽印刷所

〒690-0826 島根県松江市学園南二丁目3番11号

---



国立大学法人  
島根大学医学部地域医療支援学講座  
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1  
TEL(0853)20-2558 FAX(0853)20-2563  
career@med.shimane-u.ac.jp

# ANNUAL REPORT 2022

---

**COMMUNITY MEDICINE MANAGEMENT**

Faculty of Medicine Shimane University